

近畿自動車道（久居～勢和）

埋蔵文化財発掘調査報告

—— 第3分冊 2 ——

堀之内遺跡A・B地区



1991. 3

三重県教育委員会
三重県埋蔵文化財センター



A地区第2次調査発掘区全景（南から）



墨書土器「為」（A地区・172）



緑釉陶器皿（上：A地区234,下：B地区77）



墨書土器「馬」（B地区・58）



緑釉陶器小椀（B地区・76）

例 言

1. 本書は平成2年度に三重県教育委員会が、日本道路公団名古屋建設局から委託を受けて実施した近畿自動車道関・伊勢線第8次区間（久居～勢和）建設予定地内にかかる埋蔵文化財発掘調査（整理・報告書作成業務）のうち、堀之内遺跡A・B地区の発掘調査報告書（第3分冊の2）である。

2. 調査にかかる費用は、日本道路公団の全額負担による。

3. 調査（整理・報告書作成）体制は下記のとおりである。

- ・調査主体 三重県教育委員会
- ・調査担当 三重県埋蔵文化財センター 調査第2課第1係

次長兼調査第2課長 山澤義貴

主査 新田 洋・主事 河北秀実

主事 増田安生・主事 齊藤直樹

技師 大川勝宏・主事 伊藤裕偉

主事 角谷泰弘（伊勢市教育委員会から派遣）

主事 稲本賢治（多気町教育委員会から派遣）

主事 前川嘉宏（玉城町教育委員会から派遣）

管理指導課 主事 小坂宜広・主事 江尻 健

川崎正幸（臨時調査員）・反町瑩子・采野妙子・谷久保美知代・吉村道子

山分孝子・白石もよ子・乾ひとみ・竹内由美・上村かおり・中山学・反町

有子（室内整理員）

森田幸伸（皇學館大学学生）・近藤大典（皇學館大学学生）

4. 本書作成にかかる各整理は上記体制で行い、報文の執筆分担については目次、及び各文末にも明記した。

なお、遺物整理、報文執筆にあたっては、下記の方々からご指導・ご助言を賜った。記して謝意を表する。

（順不同、敬称略）

植野浩三（奈良大学助手）

後藤建一（静岡県湖西市教育委員会社会教育課）

磯部 克（三重県立津内高等学校教諭）

5. 本書掲載遺跡については既に刊行の「近畿自動車道（久居～勢和間）埋蔵文化財発掘調査概報Ⅳ」（三重県教育委員会・1988.3）にその調査概要を公表しているが、本書をもって最終的な報告書とする。

6. 本書に収録した各遺跡の記録類、出土遺物は三重県埋蔵文化財センターで保管している。

7. 本書に使用した遺構表示略記号は下記のとおりである。また遺構実測図作成にあたっては国土調査法による第Ⅰ座標系を基準とし、図面上の方位は座標北を用いた。

S B 竪穴住居、掘立柱建物 S E 井戸

S D 溝 S K 土坑 S F 焼土

8. スキャニングによるデータ取り込みのため、若干のひずみが生じています。各図の縮尺率は、スケールバーを参照ください。

目 次

例 言

目 次

图版目次

插图目次

表 目 次

I. 前 言	····· (河北秀实) ··· 1
II. A地区	····· (河北秀实) ··· 7
III. B地区	····· (河北秀实) ···53

図 版 目 次

A 地区

PL 1	調査前風景	33
	第2次調査発掘区全景	33
PL 2	第2次調査南半部	34
	第1次調査Bトレンチ全景	34
PL 3	第1次調査Cトレンチ全景	35
	SB18	35
PL 4	SB21	36
	SF23	36
PL 5	SF29	37
	SF29	37
PL 6	SB 2	38
	SB 4・3	38
PL 7	SB12	39
	SB14・12, SD11・SK16	39
PL 8	SB19	40
	SB22	40
PL 9	SB28	41
	SB 7	41
PL10	SB10・SK13	42
	SB17・19	42
PL11	SE 8	43
	SE 8石積み状況	43

PL12	SE 8断ち割り状況	44
	SK 6	44
PL13	出土遺物	45
PL14	出土遺物	46
PL15	出土遺物	47
PL16	出土遺物	48
PL17	出土遺物	49
PL18	出土遺物	50
PL19	出土遺物	51
PL20	出土遺物	52

B 地区

PL 1	調査前風景	64
	発掘区全景	64
PL 2	発掘区北半部	65
	SD 1遺物出土状況	65
PL 3	SD 4・3・2	66
	SD 5・7・4・3	66
PL 4	SD 8・5・7・3	67
	SD11・10	67
PL 5	出土遺物	68
PL 6	出土遺物	69
PL 7	出土遺物	70

挿 図 目 次

前 言

第1図 遺跡位置図	3
第2図 本書所収遺跡位置図	6

A地区

第3図 遺跡地形および発掘区位置図	7
第4図 発掘区地区割図	8
第5図 遺構配置図	8
第6図 発掘区上層断面図	9
第7図 遺構平面図	11~12
第8図 遺構実測図	13
第9図 遺構実測図	14
第10図 遺構実測図	15
第11図 遺構実測図	16
第12図 出土遺物実測図	19

第13図 出土遺物実測図	21
第14図 出土遺物実測図	23
第15図 出土遺物実測図	25
第16図 出土遺物実測図	27
第17図 出土遺物実測図	29
第18図 出土遺物実測図	31

B地区

第19図 発掘区地区割および遺構配置図	53
第20図 発掘区北壁・西壁土層断面図	54
第21図 遺構実測図	55
第22図 検出された溝の方位	57
第23図 出土遺物実測図	59
第24図 出土遺物実測図	61
第25図 出土遺物実測図	63

表 目 次

前 言

第1表 遺構実測図・遺物実測図整理番号一覧表	1
第2-1表 発掘調査遺跡一覧表	4
第2-2表 発掘調査遺跡一覧表	5

A地区

第3表 竪穴住居一覧表	10
第4表 掘立柱建物一覧表	16
第5表 溝一覧表	16

第6-1表 出土遺物観察表	18
第6-2表 出土遺物観察表	20
第6-3表 出土遺物観察表	22
第6-4表 出土遺物観察表	24
第6-5表 出土遺物観察表	26
第6-6表 出土遺物観察表	28
第6-7表 出土遺物観察表	30

B地区

第7表 遺構一覧表	56
第8-1表 出土遺物観察表	58
第8-2表 出土遺物観察表	60
第8-3表 出土遺物観察表	62

I. 前 言

1. 調査に至る経過

近畿自動車道関・伊勢線の久居～伊勢間は昭和47年に基本計画が決定された。

このうち久居～勢和間は第8次区間として昭和53年に整備計画決定と施工命令が出された。これに先立ち県教育委員会文化課は昭和50年と昭和53年に埋蔵文化財分布調査を実施し、昭和54年以降、日本道路公園等と文化財の保護につき本格的な協議を開始するに至った。現地での発掘調査は昭和59年から同63年までの5年間を費やし、遺跡数は41遺跡、総調査面積は151,715㎡となった。

緒野町内に所在する遺跡は、昭和61年度から同63年度にかけて調査を実施したが、堀之内遺跡もこの3箇年にわたり発掘調査を行った。昭和61年度はA地区の試掘調査と側道部分の本調査を実施した。昭和62年度はA・B地区の本調査と遺跡範囲確認のための試掘調査、さらにC地区上層の本調査と同地区下層の範囲確認調査と一部の本調査を実施した。昭和63年度は前年度の継続調査としてC地区下層の本調査を実施し、終了させた。

2. 調査および整理の方法

現地調査の方法については第3分冊1を参照された。また資料整理も第3分冊1に示した方法により実施したのでここでは略するが、堀之内遺跡の遺

構実測図と遺物実測図およびピックアップ遺物には第1表のように6桁の番号を与えて整理した。

3. 調査の体制

調査は、三重県教育委員会が主体となり、同事務

局文化課が担当した。

遺跡番号	遺跡名	遺構実測図		遺物実測図	
11	堀之内遺跡	A地区側道部分 (61年度調査)	11-0001～0020	A地区側道部分 (61年度調査)	11-0001～0077
		A地区本線部分 (62年度調査)	11-1001～1041	A地区本線部分 (62年度調査)	11-1001～1231
		B地区	11-2001～2010	B地区	11-2001～2116
		C地区	11-3001～	C地区	11-3001～
		D地区	11-4001～4027	D地区	11-4001～
		C地区下層 (62年度調査)	11-5001～	C地区下層 (62年度調査)	11-5001～
		C地区下層 (63年度調査)	11-6001～6050	C地区下層 (63年度調査)	11-6600～6869

第1表 遺構実測図・遺物実測図整理番号一覧表

以下は、昭和61～63年度の調査体制である。

昭和61年度

文化財第二係

係長 伊藤久嗣 総括
技師 新田 洋 調整・協議、天神山古墳群
ほか
主事 田中喜久雄 横尾古墳群
主事 田村陽一 葦ノ下遺跡
主事 河北秀実 平林古墳群
主事 宮田勝功 大河内城掘切ほか
技師 野原宏司 寄谷遺跡ほか
主事 野田修久 寄谷遺跡ほか
臨時調査員 青木尚根・谷 伸二
室内整理員 谷久保美知代・近藤豊美
大西友子・野崎栄子・山本紀子

昭和62年度

文化財第二係

係長 伊藤久嗣 総括
技師 新田 洋 調整・協議、焼野遺跡ほか
主事 山下雅春 戸木遺跡ほか
主事 田中喜久雄 戸木遺跡
主事 増田安生 堀之内遺跡ほか
主事 田村陽一 大保遺跡ほか
主事 河北秀実 中尾遺跡ほか
主事 宮田勝功 鳥居本遺跡ほか
主事 野田修久 天保古墳群ほか
臨時調査員 木許 守
室内整理員 谷久保美知代・近藤豊美
山本紀子・大西友子・野崎栄子
中谷とも代・東 千恵子
山際みち子・孝久由希子

昭和63年度

文化財第二係

主幹兼係長 伊藤久嗣 総括
技師 新田 洋 調整・協議、西野7号墳
主事 田中喜久雄
主事 田村陽一 堀之内遺跡
主事 河北秀実 鳥居本遺跡
主事 小坂宜広 ビハノ谷遺跡ほか

主事 山崎恒哉 西野7号墳
主事 野田修久 天保古墳群ほか
室内整理員 谷久保美知代・近藤豊美
大西友子・野崎栄子
脇業輝美・山際みち子
東 千恵子・中谷とも代
孝久由希子・小坂規美子

調査指導（昭和61～63年度、順不同、敬称略）

八賀 晋（三重大学教授）
広岡公夫（富山大学教授）
三辻利一（奈良教育大学教授）
堅田 直（帝塚山大学教授）
水野正好（奈良大学教授）
伊藤秋男（南山大学教授）
木下正史（奈良国立文化財研究所飛鳥麻原宮跡発掘調査部考古第二調査室長）
西村 康（奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター発掘技術研究室長）
大脇 潔（奈良国立文化財研究所飛鳥麻原宮跡発掘調査部主任研究官）
泉 拓良（奈良大学助教授）
西山要一（奈良大学助教授）
植野浩三（奈良大学助手）
千葉 豊（京都大学埋蔵文化財調査研究センター助手）
安孫子昭二（東京都文化課 学芸員）
石黒立人（財愛知県埋蔵文化財センター）
小玉道明（三重県総務部学事文書課主幹）
広瀬和久（三重県農業技術センター環境調査研究室室長）
原 正之（三重県農業技術センター研究員）
奥 義次（度会町教育委員会）
磯部 克（三重県立津西高等学校教諭）

発掘調査土木工事部門担当

三重県住宅供給公社・三重県土地開発公社
堀内信吾・稲葉庄衛・浜口安光
田中和美・仲田辰実
(河北秀実)



第1圖 遺跡位置圖 (1 : 100,000)

番号	遺跡名	所在地	調査面積(㎡)	調査期間 (元号は明記)	担当者	概要	
1	小戸木遺跡	久居市小戸木町	192	計 62.3.3~3.5 62.9.20~9.24	宮田 勝功	遺構・遺物なし(試掘)	
			240		水津 守	〃 (試掘)	
2	庄村遺跡	一志町庄村	304	62.9.14~9.20	新田 洋	遺構なし・遺物少量(試掘)	
3	島居本(八反田)遺跡	一志町小山、新沢田	8,900 2,640	62.9.24~63.3.7 63.5.16~7.27	宮田 勝功 小坂 得北 宮広 秀実	弥生中前期方形周溝墓など検出 飛鳥時代の井戸検出	
4	西野7号墳 (天花寺古墳群)	籠野町天花寺	3,400	62.11.9~11.31 63.5.16~9.28	新田 洋	(山林伐開)	
					新田 山崎 菅 恒俊	石剣・車輪石片出土、前期の古墳1基	
5	鹿野(口山田)古墳	籠野町高田	2,010	62.7.11~9.30	山下 勝寿	古墳は埋没せよによる掘土と判明 石検出土(試掘)	
6	鹿野(口山田)遺跡	籠野町高田	3,500	62.5.11~8.24	宮田 勝功 新田 洋	奈良時代の住居跡など検出	
7	大保(天保B)遺跡A・B区	籠野町高田	7,200	62.5.7~9.4	田村 陽一	平安時代の邸宅跡など検出	
8	大保(一志西部)遺跡C区	籠野町高田	5,000	62.5.18~6.30	増田 安生	奈良~平安時代の竪穴住居など検出	
9	大保(天保跡)遺跡D区	籠野町高田	3,800	62.7.1~8.12	増田 安生	〃	
10	天保古墳群 (志、天保遺跡B区)	籠野町高田	5,380	62.8.5~63.7.12	田村 陽一 藤久 修久	6世紀ごろの横穴式石室墳など	
11	堀之内遺跡	A区 籠野町堀之内	1,450	62.2.23~3.13 62.5.6~7.16 62.7.23~10.1 62.9.1~63.3.19 62.10.26~11.20 63.5.18~8.13 62.5.20.6.29~7.22	新田 洋	(側道部分の調査)	
			2,200		河北 秀実	古墳~平安時代の住居跡など検出	
			2,200		河北 秀実	古墳~平安時代の溝など検出	
			5,400		14,250	増田 安生	弥生後期竪穴、平安の竪立など検出
			700		木津 守	古式土師器出土、ヤナタ遺構検出	
			1,900		400	田村 陽一	縄文中・後・晩期の土器多数出土
12	中尾遺跡	籠野町薬王寺	93	600 62.5.6~6.5	河北 秀実	(試掘)	
			507		河北 秀実	竪立柱建物3棟検出	
13	高野遺跡 (どろ)谷古墳群)	籠野町薬王寺、下之庄	1,000	13,000 62.5.19~8.12	野原 安司	(山林伐開、表土掘削)	
			12,000		野田 修久 水津 守	弥生式土器出土	
14	女牛谷古墳群	松原市小野町 籠野町薬王寺、下之庄	4,031 3,140	7,171 61.12.15~62.2.21 62.5.7~7.11	野原 安司 志野 隆 藤久 修久 山下 雅幸	(山林伐開、第1次調査) 後期の古墳群	
15	平田遺跡	松原市小野町	228	61.2.18~2.24	田村 陽一	遺構なし、遺物少量(試掘)	
16	山見(下山見)遺跡	松原市小阿保町	224	60.11.12~11.20	野原 安司	遺構なし、遺物少量(試掘)	
17	新田遺跡	松原市小阿保町	288	4,688 60.12.27~61.3.25	野原 安司	(試掘)	
			4,400		野原 安司	縄文後期土器出土	
18	堀内田古墳群 (堀内田遺跡)	松原市堀内町	428	6,528 60.12.27~61.3.25 61.6.30~7.30	野原 安司	(試掘)	
			5,500		吉水 康夫	横穴式石室墳を主体とする古墳群	
			600		野田 修久	〃	
19	藤ノ下(河崎古墳群)遺跡	松原市堀内町	1,100	2,500 61.6.30~10.3	田村 陽一	(試掘)	
			1,400		田村 陽一	良好な資料となる縄文後期土器多数出土	

第2-1 発掘調査遺跡一覧表(太ゴチックは本書所収遺跡)

※調査総面積は151,715㎡、ただし本調査面積に試掘調査面積が重複する遺跡あり。

番号	遺跡名	所在地	調査面積(㎡)	調査期間 (元号は昭和)	担当者	概要
20	覆瓦遺跡	松阪市伊勢寺町	304 計 2,708 2,404	60.10.18~10.24 60.11.26~61.3.18	田村 隆一 河北 秀実	(試掘) 奈良~平安時代の墓穴遺構検出
21	平林古墳群	松阪市伊勢寺町	4,021	61.6.9~10.3	新田 洋 河北 秀実	石室を主体とする古墳群
22	横尾(西野)墳墓群	松阪市伊勢寺町、岡田町	5,500 8,000 2,500	60.7.1~61.2.27 61.5.31~12.5	田原 仁 宮田 勝功 田中善久 宮田 勝功	500基におよぶ中世墓群 横尾小形古墳(竪穴式石室)2基 横尾小形方墳2基
23	さんざい・林遺跡	松阪市西野町	176	60.10.25~10.26	田村 隆一	(試掘)
24	大内内5号(坂東)古墳	松阪市笠川町	180	61.7.23~8.19	野田 敏久	中世土器片微量。古墳にあらざ (試掘)
25	大内内試掘跡	松阪市大内町	600	62.1.5~2.25	宮田 勝功	中世北島氏の平山城大内内城の堀 跡
26	上ノ広(森下魚西方)遺跡	松阪市広瀬町	224 1,360 1,136	60.3.22~60.3.31 60.7.7~60.10.14	安生 仁 田原 勝功 田村 隆一 野原 安司	(試掘) 先土器末~縄文時代の石礫多数出土
27	大塚(大塚福南方)遺跡	松阪市広瀬町	144	60.10.28~60.10.31	田村 隆一	遺構、遺物微量 (試掘)
28	花ノ木(山崎)遺跡	多気町牧	52 5,852 5,800	59.12.10 60.1.28~60.3.26	田村 隆一 田村 隆一 田村 隆一 田村 隆一 田村 隆一	(試掘) 弥生時代中期整穴住居、方形埴輪 基など検出
29	浅間山北遺跡	多気町牧	44 1,044 1,000	59.12.10 60.1.28~60.2.23	高見 隆一 田村 隆一 川原 仁	(試掘) 土師器破片、天目茶碗片出土
30	浅間山南遺跡	多気町牧	470	60.3.25~60.3.31	河原 晋幸 田村 隆一	遺構なし。遺物微量 (弥生前期土 器片) (試掘)
31	牧元遺跡 1・2・3号墓 4・5・6・8号墓 7号墓	多気町牧 多気町牧・銀形 多気町銀形	960 1,160 200	60.7.1~60.10.31 60.11.30~61.3.25 61.6.9~61.8.15	田中善久 河北 秀実 田中善久 野原 安司	奈良時代の瓦専用墓 1号……平窯 2~8号…壘窯
32	教尊寺(中牧)遺跡	多気町銀形	144 1,144 1,000	60.11.1~60.11.12 60.12.5~61.2.28	田村 隆一 田村 隆一	(試掘) 竪立柱建物検出、中世土器出土
33	下村A遺跡	勢和村丹生	88 7,500 7,500	59.12.6~12.8 60.1.28~3.28	増田 安生 田村 隆一 宮本 隆夫 河原 晋幸 田村 隆一	(試掘) 石鏃・石匙・山茶碗・瓦片等出 土
34	F村B遺跡	勢和村丹生	44	59.12.8~12.9	増田 安生 田村 隆一	遺構・遺物なし (試掘)
35	岩谷遺跡	松阪市矢津町	740 4,700 4,700	61.2.27~3.25 61.8.20~62.3.18	田原 仁 野原 安司 野原 安司	(試掘) 土師器など出土。寺(黄檗寺)跡 の伝承に異つた。
36	銀形(牧)中世墓群	多気町銀形	520	61.7.1~9.6	野原 安司	石室の中世墓基址検出
37	大野山古墳群	松阪市伊勢寺町、岩内町	1,750	61.9.20~11.4	新田 洋	竪穴式石室墳主体の古墳群
38	曾祖外遺跡	松阪市矢津町	1,676	61.9.1~10.18	野原 安司 野原 安司	鎌倉時代の竪立柱建物など検出
39	戸木(久保屋敷)遺跡	久居市戸木町	12,000	62.9.1~63.3.31	山下 善幸 田中善久	中世後半竪立柱建物、井戸、土塼 状遺構など検出
40	ビノ谷遺跡	越前町薬王寺	1,600	63.4.11~5.11	小坂 寛成	古墳時代墓穴住居。鎌倉時代竪 立柱建物検出
41	西野遺跡 北広遺跡	越前町天花寺 越前町天花寺	2,473	63.7.12~8.3	野田 敏久	古式土師器片出土 (試掘) ラスカイト製尖頭器片出土(試掘)

第2-2表 発掘調査遺跡一覧表



第2図 本書所収遺跡位置圖 (1 : 25,000)

Ⅱ. A 地区

1. はじめに

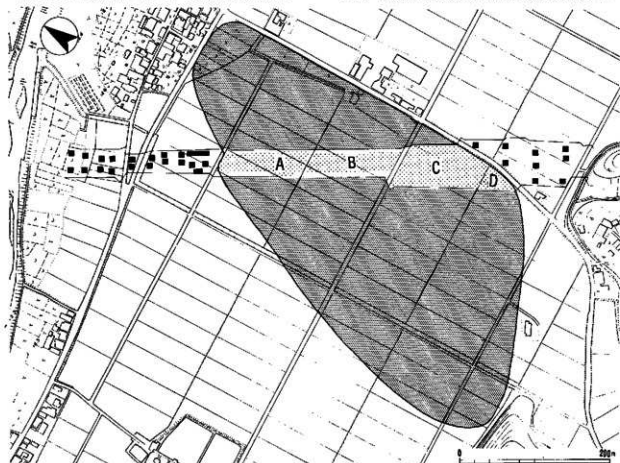
堀之内遺跡は、穂野町大字堀之内字川原田・宮垣内・中ノ坪に所在する遺跡で、当初は鎌倉～室町時代の遺物包含地として南北140m、東西120mが遺跡範囲とされていた。当報告におけるA地区はこの範囲に含まれており、後述するB・C・D地区は発掘調査の進展に伴う遺跡範囲の拡大により新たに設定した地区である。A地区の調査前の標高は約16m、現況は水田であるが、昭和52年度に圃場整備がすでに終了している。なお歴史的環境については、第3分冊1を参照されたい。

A地区の第1次調査は、事業地内に3本のトレンチを設定した。西側道部分をCトレンチ、センター杭に沿った中央をAトレンチ、東側道部分をBト

レンチと呼称した。東西の両側道は工事が先行するため、B・Cトレンチについては本調査とし、Aトレンチは遺物包含層上面までの掘削をおこない、一部は深さ確認のため遺構検出面まで掘り下げた。

Bトレンチの地区杭は道路センター杭STA285+0.0から幅杭L.64方向へ13.90mの点をB0とし、これを基準に北へ4mの地点をB4、8mの地点をB8・・・とした。Cトレンチの地区杭はSTA285+0.0から幅杭R.57方向へ14.40mの点をC0とし、これから北へ16mの地点をC16、20mの地点をC20、・・・とした。

またA地区北方の水田にも試掘トレンチおよびグリッドを数カ所設定したが、遺構は検出されず、中



第3図 遺跡地形および発掘区位置図 (1:5,000)

世の遺物が少量認められたのみである。

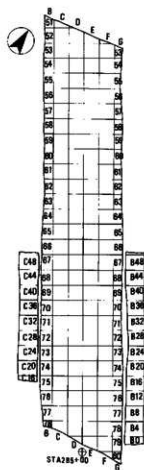
第1次調査の期間および面積は、昭和62年2月23日から3月13日までで、1,450㎡である。

A地区の第2次調査は、南北長120m、東西幅21mの本線部分の本調査をおこなった。

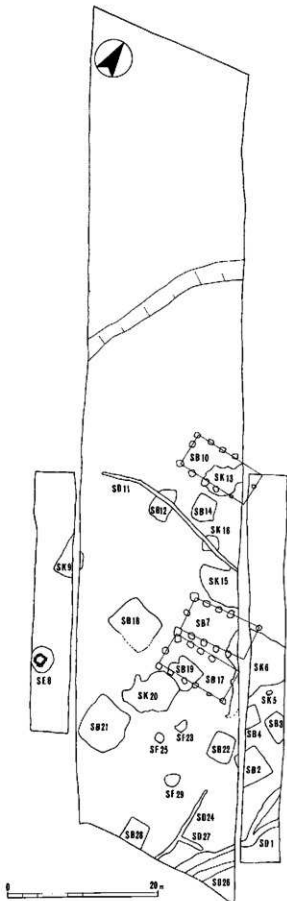
地区枕はSTA285+00をE80とし、原則に従い、南北に数字を、東西にアルファベットを付与した。

A地区の調査と並行してA地区北方の木田と畑地、および南方の水田の試掘調査を行った。その結果、A地区南方の水田地帯で南北200mにわたって、遺構、遺物が確認されたため、農道を挟んで新たにB地区とC地区を設定して本調査を行うこととした。

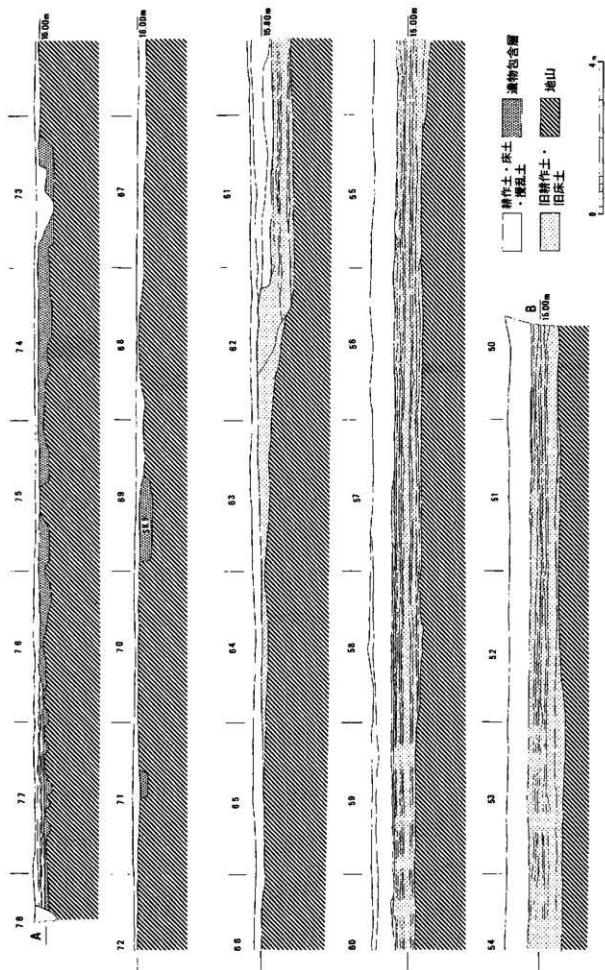
A地区第2次調査の面積は2,200㎡で、期間は試掘調査を含めると昭和62年5月6日から7月16日までである。



第4図 発掘地区区割図 (1:1,000)



第5図 遺構配置図 (1:500)



第6回 発掘区土層断面図 (1:100)

2. 層序および遺構

調査区の状況は北半部と南半部で大きく異なる。北半部は北端から地区枕の59～63列付近までである。層序は耕作土、床土の下に、旧耕土・旧床土が3～5層、約50～90cmみられ、その下が褐色砂である。遺物包含層は認められず、褐色砂上面で遺構検出を行ったが、遺構は全くみられなかった。遺構検出面の標高は14.2～14.9mである。なお旧耕作土および旧床土には、室町時代の上師器、陶器等が含まれていたが、いずれも細片で、開墾時に破壊されたものと思われる。

南半部は地区枕59～63列付近から南端までである。層序は上から順に耕作土、床土、黒褐色砂質土（遺物包含層）、黄褐色砂となる。遺物包含層は地区枕73列以南にのみみられる。地区枕73列以北では遺物包含層がみられず、床土の下が黄褐色砂となっているが、これは圃場整備の際、削平を受けたものである。遺構検出面は黄褐色砂の上面で行ったが、その標高は15.8～16.0mである。

遺構は南半部のみみられ、竪穴住居10棟、掘立柱建物3棟、井戸1基、焼土3基、溝6条、土坑6基、ピット多数を検出した。時期は古墳時代後期か

ら平安時代にかけてである。遺構の埋土はいずれも黒褐色砂質土と黄褐色砂が混合したものである。以下、時代順に紹介していきたい。

(1) 古墳～飛鳥時代の遺構

A. 竪穴住居

S B18とS B21の2棟で、ともに一辺6m前後の隅丸方形であるが、その詳細については第3表のとおりである。S B18は焼土は認められなかったが、S B21には北近近くの床面に40×60cm、厚さ1～5cmの焼土がみられた。

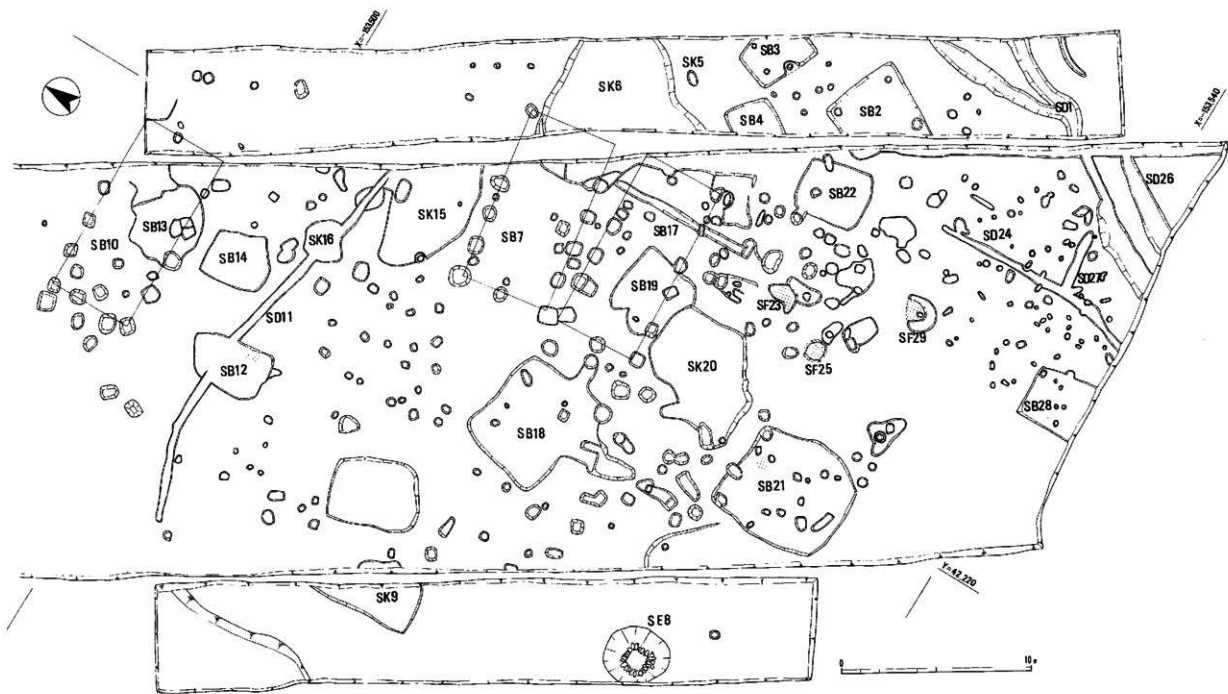
B. 焼土

S F23 遺物包含層中に長さ2m、幅約1mの範囲で焼土が検出され、その厚さは15～25cm程である。中央から土師器蓋(14)の上半部が出土した。南側には30×15×10cmの砂岩が2個方向をそろえて並んでおり、その周りに拳大の砂岩が9個程散乱してみられるが、これらはいずれも火を受けている。

S F29 径1.8m、深さ約20cmの焼土坑である。北側の径1m程の範囲には焼土がみられ、その上には土師器蓋(13)が倒立状態で置かれており、その周辺には20～40cm、厚さ約7cmの泥岩が4個みられ

遺構	規模 (m)	面積 (㎡)	深さ (cm)	長軸方向	柱穴	焼土	出土遺物	備考
S B21	6.2×6.0	37.2	20	N32° E	×	床面	土師器蓋(7～9)、須恵器蓋(10)・杯(11)・鉢(12)	古墳時代
S B18	5.9×4.9	28.91	10	N52° W	×	なし	土師器蓋(1～3)、須恵器杯身(4)・蓋(5・6)	飛鳥時代
S B2	3.0×2.4以上	7.2以上	20	N63° W	○	不明	土師器皿(15～17)、須恵器蓋(18・19)	奈良時代
S B3	3.5×2.5以上	8.75以上	20	N37° W	○	不明	土器小片	奈良時代
S B4	2.5×2.2以上	5.5以上	20	N30° W	×	不明	土師器皿(20)・甕(21～23)	奈良時代
S B12	4.4×2.8	12.32	20	N29° E	×	東壁	土師器輪(24)・杯(25～26)	奈良時代
S B14	3.5×3.0	10.5	20	N28° E	×	なし	土師器輪(27)・杯(28～30)・皿(31～33)・甕(34・35) 須恵器杯(36～38)	奈良時代
S B19	4.0×3.8以上	15.2以上	10～20	N49° W	×	東壁	土師器輪(39)・皿(40・41)・甕(42・43)、須恵器蓋(44) 杯(45～46)	奈良時代 SK20より古い
S B22	3.7×3.2	11.84	10	N25° E	×	なし	土師器杯(47)、製塩土器(48)、須恵器杯(49)	奈良時代
S B28	3.1以上×3.1	9.61以上	10～20	N30° E	×	不明	土師器輪(78)・杯(79・80)・甕(81・82)、灰釉陶器高杯(83)、土甕(84)	平安時代

第3表 竪穴住居一覧表



第7図 遺構平面図 (1 : 200)

た。

(2) 奈良時代の遺構

A. 竪穴住居

竪穴住居はSB2・3・4・12・14・19・22の7棟である。各竪穴住居の規模等詳細については第3表のとおりである。東辺に焼土を伴うものと全く焼土を伴わないものがみられる。

B. 土坑

SK13 東西4.5m、南北4.0m程の不定型な土坑である。遺構検出面からの深さは20cmである。

SK20 東西7.5m、南北5.0m、深さ10~30cmの土坑で、切り合いはSB19より新しい。平面形から、

竪穴住居が2棟重複している可能性がある。重複しているとすれば、西側の竪穴住居は3.5m×3.5m前後の大きさで、東側のそれは4.0m×4.0m前後と考えられる。

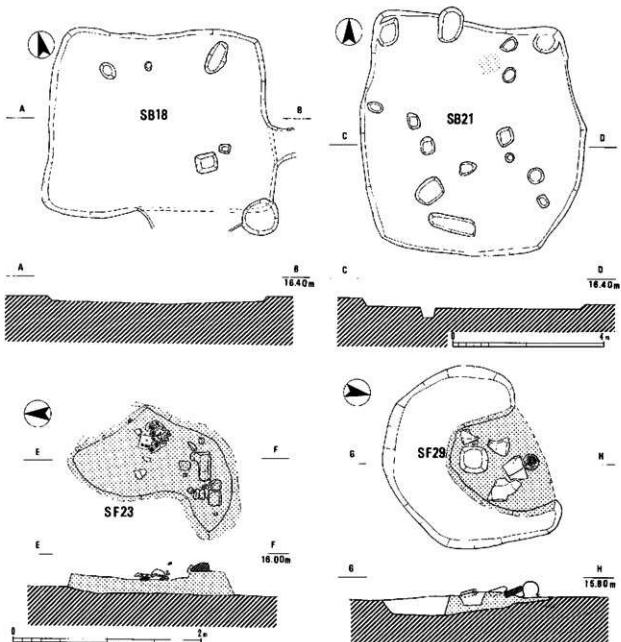
(3) 平安時代の遺構

A. 竪穴住居

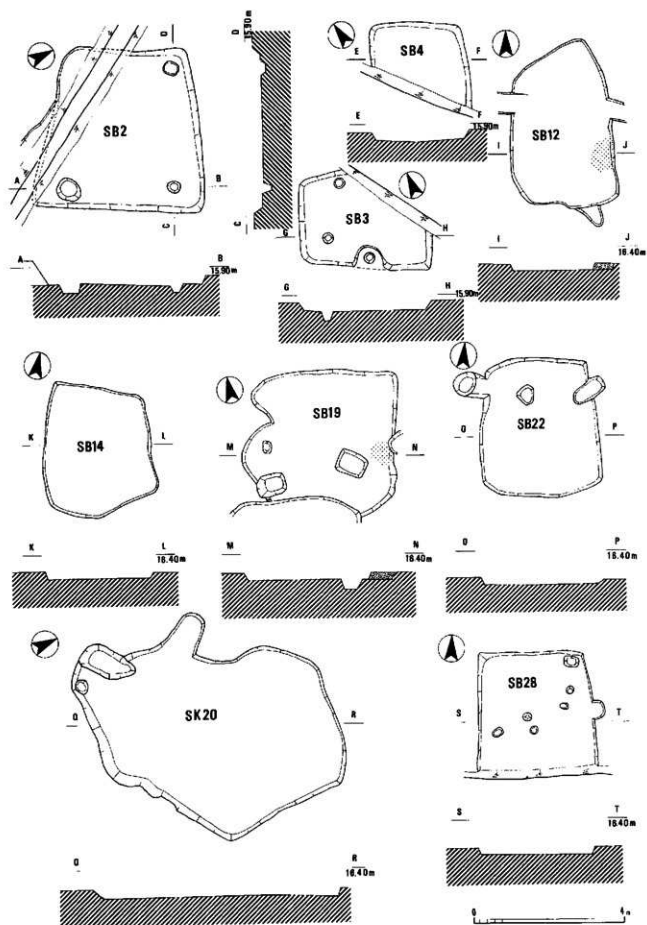
SB28の1棟のみで、規模等については第3表のとおりである。

B. 掘立柱建物

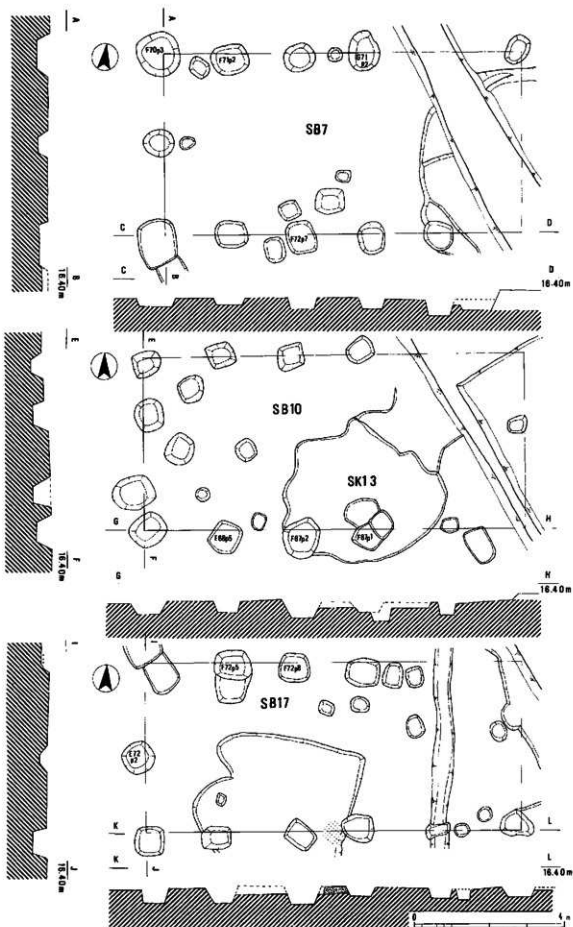
SB7・10・17の3棟を検出したが、規模等については第4表のとおりである。3棟とも柱掘形は70cm前後×90cm前後の長方形を基本としており、深さ



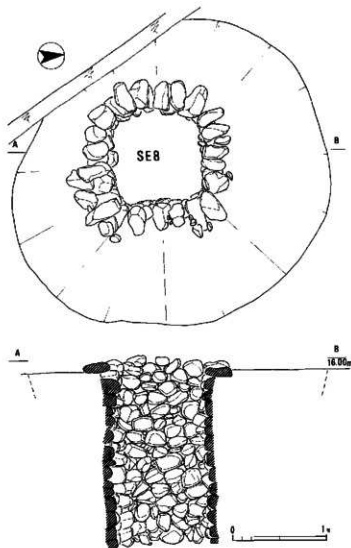
第8図 遺構実測図 (SB18・21…1:100 SF23・29…1:40)



第9図 遺構実測図 (1:100)



第10号 遺構実測図 (1:100)



第11河 遺構実測図 (1:40)

は20~40cm程であるが、柱痕跡は確認できなかった。

C. 井戸

SE8 平面形が辺約1mの方形の石積井戸で、深さは約1.8mである。石材は人頭大の物を使用している。井戸枠等の木製品は確認出来なかった。掘形は直径約3.5mの円形である。

D. 溝

SD1・11・24・27の4条を検出した。各々の規模等については第5表のとおりである。なおSD1には古墳時代から奈良時代の遺物も多数混入していた。

E. 土坑

SK6 東西7m以上、南北9m程の不定形な土坑で、検出面からの深さは30cmである。

SK9 南北5.5m以上、東西3.0mで、深さ10cmである。

SK16 東西2.2m、南北2.0mの方形で、深さは20cmである。

(5) 時期不明の遺構

A. 溝

SD26 規模等については第5表のとおりである。

遺構	規模(間)	棟方向	桁行(m)	梁行(m)	柱間寸法(m)		面積(m ²)	出土遺物	時代
					桁行	梁行			
SB7	5×2	N83° E	9.5	4.8	1.9等間	2.4等間	45.6	土師器甕(86)、黑色土師器碗(87-88)、灰釉陶器(89)	平安時代
SB10	5×2	N88° E	10.0	4.5	2.0等間	1.5+3.0(2.0+2.5)	45.0	土師器碗(90)・杯(91-92)・皿(93)	平安時代
SB17	5×2	N86° E	10.0	4.4	2.0等間	2.2等間(1.5+2.9)	44.0	土師器杯(94~96)・壺(97-98)、灰釉陶器皿(99)	平安時代

第4表 掘立柱建物一覽表

遺構	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	方向	出土遺物	時代	備考
SD1	18以上	0.5~1.5	0.2	N33° E	土師器小皿(110-111)、須恵器杯(112-113)・壺(114)	平安時代	
SD11	23以上	0.5	0.2	N79° W	土師器碗(115)・杯(116-117)・小皿(118)・壺(119)、緑釉陶器(120)、灰釉陶器(121)	平安時代	
SD24	11以上	0.3~0.7	0.2	N1° W	土師器杯(122-123)	平安時代	SD27より古、B地区SD1か?
SD26	5以上	0.7~1.3	0.2	N34° E		不明	
SD27	3.5	0.5	0.3	N84° E	山茶碗(124)	平安時代	SD24より新、掘上に石を含む

第5表 溝一覽表

B. 焼土

S F 25 径1mの範囲で焼土がみられた。

C. 土坑

S K 15 東西5.0m以上、南北4.7m、深さ10cmである。

3. 遺物

遺構及び遺物包含層から、古墳時代後期、飛鳥時代、奈良時代、平安時代の遺物が多数出土した。その種類は土師器碗・杯・皿・小皿・壺・甕・粟・銅付円筒状土器、製塩土器、黑色土器、瓦器小碗、須恵器杯・壺・高杯・鉢・壺・甕、灰釉陶器碗・皿・小皿・高杯、緑釉陶器碗・皿、山茶碗、山皿、白磁碗、土錘、瓦（丸瓦、平瓦）、加工陶器、石製品（砥石）などである。

各遺物の詳細については遺物観察表（第6表）に示したが、特徴的な遺物のみ以下に略述しておきたい。

・須恵器鉢（12） 推定口径約19cmで、口縁部が内傾する。裏面では蓋としたが訂正しておきたい。

・土師器甕（14） いわゆる長胴甕である。口縁部はヨコナデである。胴部外面はタケキを施した後、部分的に縦または横方向にハケ調整をし、さらに縦方向にヘラケズリをおこなっている。内面はナデているが、不徹底のために背海波文が残っている。

・土師器杯（30） 高台を有する杯で、底部は平底、体部は直線的に外傾する。高台は底部にヘラで格子状に刻みつけた後貼りつける。体部内面には格子状暗文がみられる。底部中央には径2.3～3.1cmの楕円形の穿孔がみられるが、焼成後、外面からの穿孔である。

・土師器杯（57） 小片のため口径は推定である。口縁部をヨコナデし、底部外面をヘラケズリしているが、底部内面にはハケメがみられる。

・土師器碗（153） 口径約13cmの碗で、底部は平底である。口縁部をヨコナデし、底部外面は未調整

である。内面は体部にハケメ調整がみられ、底部はナデ調整を施している。

・土師器杯（172） 底部外面に墨書「為」がみられる。

・土師器杯（173） 体部内面にハケメ調整を施す。

・土師器甕（188） 胴部は球胴状で、口縁部はほぼ直立し、端部はまるい。粘土つなぎ痕がみられる。口縁部はヨコナデ、外面は頸部は8本/cmの細かいハケメ、胴部は4本/cmの粗いハケメ、底部はヘラケズリである。内面は胴部、底部ともナデている。

・土師器甕（206） 長胴甕であるが、外面の胴部中央にヘラ記号がみられる。

・土師器銅付円筒状土器（207） 口径16cm前後の円筒状の土器で下方に広がる。外面は縦のハケメ、内面は横のハケメで、ハケ調整後、口縁部から5cm程下に銅を貼りつけた後、横方向にナデる。県内の慣例としては、高宮跡のS K 225⁰、S K 5200⁰出土のものがある。

・須恵器高杯（229） 口径は10cm前後である。杯部の外面に沈線を一条巡らせ、その上に1.3cm程の間隔で径0.5cm程の球状の貼付文を施す。

・緑釉陶器（234・235）（234）は皿で内面には底部と体部の境に沈線を施す。口縁には輪花がみられるが、破片のためその数は不明である。胎土は軟質である。（235）は底部小片であるが、高台は削り出して、胎土は硬質である。

・加工陶器（260） 中世の陶器鉢類の体部を加工したものである。

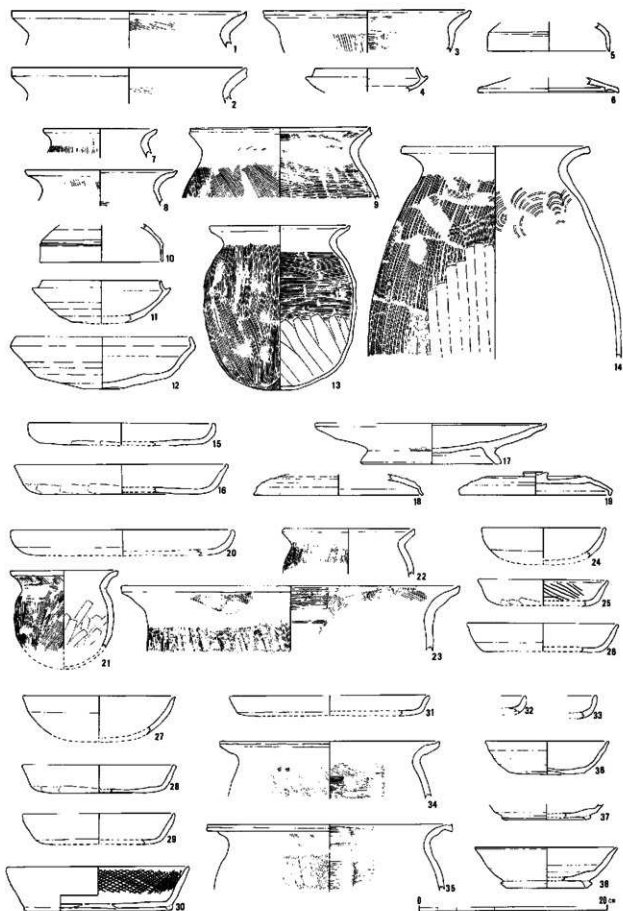
4. 小 結

A地区は古墳時代後期から平安時代の集落跡であることが判明した。以下、(1)古墳～飛鳥時代、(2)奈良時代、(3)平安時代の順に若干のまとめをしておき

たい。

(1) 古墳時代～飛鳥時代

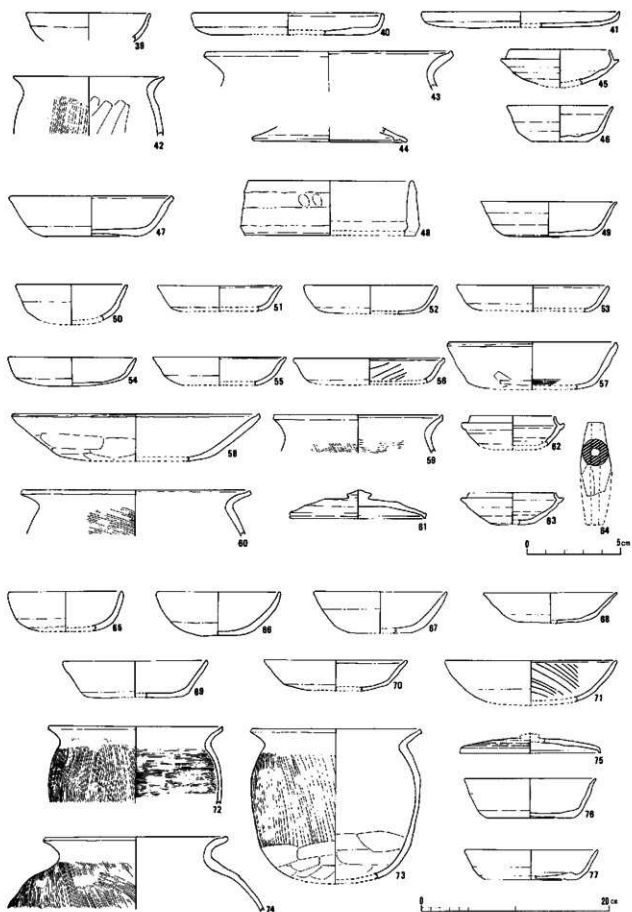
この時期の主な遺構は竈穴住居2棟と焼土2基で



第12图 出土器物实测图 (1 : 4)

遺物番号	埋藏番号	出土遺物位置	器種	口径 cm	高さ cm	底径 cm	選別度	形態の特徴	技法の特徴	出土	調査	色調	備考
38	11-1053	第2次 S B14	G70 須恵器 鉢	(15)	4.3	高内 (10)	高脚 片	高台は外に張り に開く	白磁ココナデ	緑砂 赤金	並	灰白7.5YR/1	
39	11-1011	第2次 S B19	F73 土師器 鉢	不明	不明	-	口縁 小片		白磁ココナデ、底面朱調 色	並	並	黄緑10YR8/6	
40	11-1008	第2次 S B19	F73 土師器 鉢	(20)	2.3	-	片		白磁ココナデ、底面ヘ ラケスリ	良	良	橙5YR7/8	
41	11-1007	第2次 S B19	F73 土師器 鉢	(21)	1.6	-	片		白磁ココナデ、底面ヘ ラケスリ	粗砂 赤金	良	灰黄緑10YR8/4	
42	11-1009	第2次 S B19	F73 土師器 鉢	(16)	不明	-	口縁 片		白磁ココナデ、胴部外 面にヘラケスリ	並	並	灰黄緑10YR8/3	
43	11-1010	第2次 S B19	F73 土師器 鉢	不明	不明	-	口縁 小片		白磁ココナデ	並	並	灰黄緑10YR8/3	
44	11-1014	第2次 S B19	F73 須恵器 鉢	不明	不明	-	口縁 小片	内面に盛り	ココナデ	緑砂 赤金	並、自然 色	灰白10YR/2	
45	11-1012	第2次 S B19	F73 須恵器 鉢	(11)	不明	-	片		ココナデ、底面朱調 色	緑砂 赤金	硬	青灰10B6/1	
46	11-1013	第2次 S R19	F73 須恵器 鉢	(11)	3.8	6.0	体高 底径	体高は底径の 1.5倍	ココナデ、底面朱調 色	砂 赤金	並	灰白10Y7/1	
47	11-1048	第2次 S B22 G76 包含層	G75 土師器 鉢	(17)	4.3	-	体高 底径		土師器ココナデ、胴部 朱調色	砂 赤金	良	橙5YR7/8	
48	11-1049	第2次 S B22	G75 須恵器 鉢	不明	6.8	不明	体高 小片	芯線式	内面平、外面朱調、底 面朱調色	砂 赤金	並	橙5YR7/8	
49	11-1047	第2次 S B22	G75 須恵器 鉢	14.4	3.7	(10)	片	体高は底径の 1.5倍	ココナデ、底面朱調 色、口縁は張り付 り	緑砂 赤金	良	明黄緑10B7/1	
50	11-1051	第2次 S B13	G67 土師器 鉢	(12)	不明	-	口縁 片		土師器ココナデ、底面朱 調色	並	並	灰黄7.5YR/3	
51	11-1088	第2次 S K13	G67 土師器 鉢	不明	不明	-	口縁 小片		土師器ココナデ、底面朱 調色	良	良	黄緑7.5YR8/8	
52	11-1086	第2次 S K13	G67 土師器 鉢	(14)	3.1	-	口縁 小片		土師器ココナデ、底面朱 調色	良	良	橙5YR7/8	
53	11-1087	第2次 S K13	G67 土師器 鉢	不明	不明	-	口縁 小片		土師器ココナデ、底面朱 調色	良	良	黄緑7.5YR8/8	
54	11-1085	第2次 S K13	G67 土師器 鉢	13.4	3.1	-	片		土師器ココナデ、底面朱 調色	良	良	橙5YR7/8	
55	11-1089	第2次 S K13	G67 土師器 鉢	不明	不明	-	口縁 小片		土師器ココナデ、底面朱 調色	良	良	橙5YR7/8	
56	11-1090	第2次 S K13	G67 土師器 鉢	不明	不明	-	口縁 小片		土師器ココナデ	粗良	良	橙5YR7/8	放射状線文
57	11-1091	第2次 S K13	G67 土師器 鉢	不明	不明	-	小片		土師器ココナデ、底面外 面にヘラケスリ、底 面朱調色	良	良	橙5YR7/8	
58	11-1092	第2次 S K13	G67 土師器 鉢	(26)	(5)	-	口縁 片		土師器ココナデ、胴部外 面にヘラケスリ	良	良	橙5YR7/8	
59	11-1098	第2次 S K13	G67 土師器 鉢	不明	不明	-	口縁 小片		土師器ココナデ、胴部外 面にヘラケスリ	並	並	淡黄2.5YR/4	
60	11-1097	第2次 S K13	G67 土師器 鉢	(24)	不明	-	口縁 片		土師器ココナデ、胴部外 面にヘラケスリ	緑砂 赤金	並	淡黄2.5YR/3	
61	11-1093	第2次 S K13	G67 須恵器 鉢	14.4	3.0	-	底形	つまみ	ココナデ、底面朱調 色、口縁は張り付 り	砂 赤金	良	オレンジ2.5YR/1	
62	11-1065	第2次 S K13	G67 須恵器 鉢	(9)	不明	-	口縁 片	たがひがかりは低 く内傾	ココナデ	緑砂 赤金	硬	黄5YR6/1	
63	11-1064	第2次 S K13	G67 須恵器 鉢	(9)	3.3	-	片	たがひがかりは低 く内傾	ココナデ、底面朱調 色	緑砂 赤金	硬	青灰5YR6/1	
64	11-1099	第2次 S K13	G67 土師器 鉢	不明	不明	孔径 1.0	片	底面		土師器	良	黒2/7	底径7.6cm
65	11-1103	第2次 S K20	D73 土師器 鉢	(12)	不明	-	口縁 小片		土師器ココナデ、底面朱 調色、底面盛り上げ 部、底面朱色	並	並	灰黄7YR6/2	
66	11-1104	第2次 S K20	B74 土師器 鉢	13.0	4.7	-	底面 平底	底面平底	土師器ココナデ、底面朱 調色、底面朱色	並	良	淡黄2.5YR8/4	
67	11-1105	第2次 S K20	D73 土師器 鉢	(14)	4.3	-	片	底面平底	土師器ココナデ、底面朱 調色	並	並	灰黄緑7.5YR8/4	
68	11-1112	第2次 S K20	E73 土師器 鉢	(14)	3.2	-	片		土師器ココナデ、底面朱 調色	並	並	灰黄緑10YR8/3	
69	11-1109	第2次 S K20	D73 土師器 鉢	(15)	3.8	-	片		土師器ココナデ、底面朱 調色	砂 赤金	良	橙5YR7/8	
70	11-1113	第2次 S K20	D73 土師器 鉢	(14)	不明	-	片		土師器ココナデ、底面朱 調色	良	良	橙5YR7/8	
71	11-1111	第2次 S K20	D73 土師器 鉢	(18)	不明	-	口縁 片		土師器ココナデ、底面朱 調色	良	良	橙5YR7/8	放射状線文
72	11-1106	第2次 S K20	D-E73 土師器 鉢	(18)	不明	-	上平 片		土師器ココナデ、胴部外 面にヘラケスリ	金箔 赤金	並	灰黄緑10YR8/3	
73	11-1107	第2次 S K20	D73 土師器 鉢	(18)	不明	-	片		土師器ココナデ、胴部外 面にヘラケスリ、底 面朱色	砂 赤金	並	灰黄緑10YR8/3	
74	11-1106	第2次 S K20	R74 土師器 鉢	19.6	不明	-	上平 片	底面朱	土師器ココナデ、胴部外 面にヘラケスリ	良	良	淡黄2.5YR8/4	

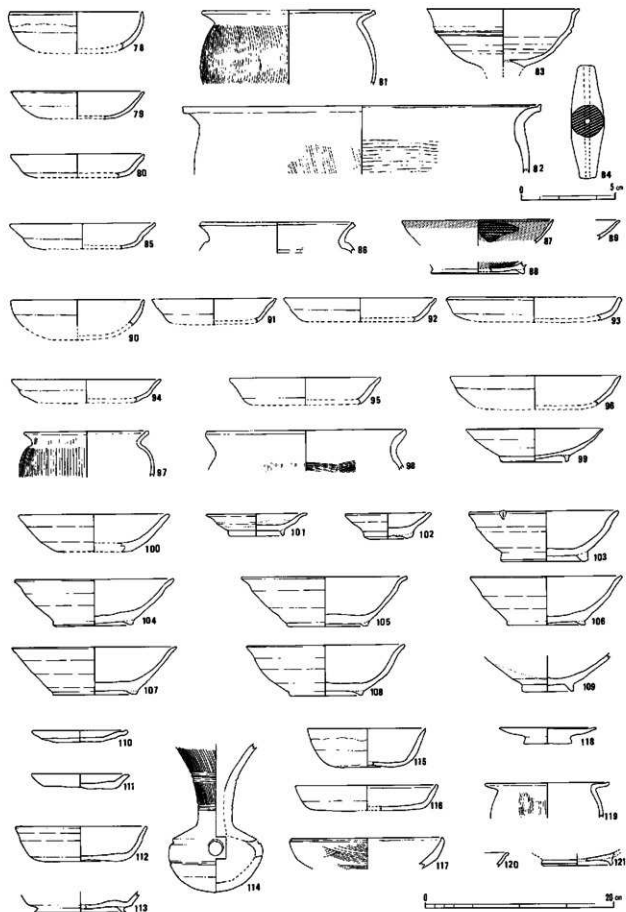
第6-2表 出土遺物観察表



第13图 出土器物实测图 (1:4, 64:1:2)

発掘 層号	発掘 層名	出土遺物位置	遺物 種類	材質 色	長さ cm	幅 cm	高さ cm	遺存度	形態の特徴	技法の特徴	胎土	底色	文 飾	備 考
75	11-1102	第2次 S 5B20	D73 土製器 砂皿	(15)	不明	-	34			口縁のみ、裏面は口縁部 にのみ、口縁部は口縁部 にのみ	砂粒多 量	黒	ナメクジ 2.5076/1	砂粒多 量
76	11-1100	第2次 S 5B20	D73 土製器 砂皿	(14)	4.2	9.0	34		後面は直線的に 外縁	口縁のみ、裏面は口縁部 にのみ、口縁部は口縁部 にのみ	砂粒多 量	黒	青灰SDG/1	
77	11-1101	第2次 S 5B20	D73 土製器 砂皿	(14)	3.1	(10)	34		後面は直線的に 外縁	口縁のみ、裏面は口縁部 にのみ	砂粒多 量	黒	青灰SDG/1	
78	11-1090	第2次 S 5B20	D78 土製器 砂皿	(14)	不明	-	34		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	赤灰2.5YR8/3	
79	11-1091	第2次 S 5B20	D78 土製器 砂皿	(14)	不明	-	34		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	赤灰7.5YR8/4	
80	11-1082	第2次 S 5B20	D78 土製器 砂皿	不明	不明	-	口縁 小片		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	黄緑5YR7/8	
81	11-1094	第2次 S 5B20、仮倉庫	D79 土製器 砂皿	(18)	不明	-	上 片		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	赤灰10YR7/3 に多い黄緑10YR5/3	2次焼成による 底色と文飾
82	11-1053	第2次 S 5B20	D78 土製器 砂皿	(38)	不明	-	口縁 片		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	黄緑10YR8/8	
83	11-1085	第2次D78 SB 50 D78-C77 倉庫	D78 土製器 砂皿	(16)	不明	不明	砂 片		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	黄緑5Y7/1	
84	11-1006	第2次 S 5B20	D78 土製器 砂皿	全長 6.0	厚 1.8	孔径 0.3	不明		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	黄緑10YR8/4	重量12.3g
85	11-1009	第2次 S B 7 (F70 pit3)	S B 7 土製器 砂皿	不明	不明	-	口縁 小片		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	黄緑5YR7/6	
86	11-1008	第2次 S B 7 (F70 pit4)	S B 7 土製器 砂皿	不明	不明	-	口縁 小片		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	内面 黒い黄緑 10YR7/3 外面 黄緑5YR8/3	
87	11-1005	第2次 S B 7 (F70 pit5)	S B 7 土製器 砂皿	不明	不明	-	口縁 小片		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	内面 黒い黄緑 10YR7/3 外面 黄緑5YR8/3	A 煎
88	11-1006	第2次 S B 7 (F71 pit2)	S B 7 土製器 砂皿	不明	不明	-	口縁 小片		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	F 赤い赤黒5YR5/3	A 煎
89	11-1002	第2次 S B 7 (G71 pit2)	S B 7 土製器 砂皿	不明	不明	-	口縁 小片		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	灰白5YR7/2	
90	11-1070	第2次 S B 10 (F67 pit2)	S B 10 土製器 砂皿	不明	不明	-	口縁 小片		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	赤灰2.5YR8/3	
91	11 1067	第2次 S B 10 (F67 pit2)	S B 10 土製器 砂皿	不明	不明	-	口縁 小片		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	外面 黄緑7.5YR 8/3 内面 赤黒5YR5/6	
92	11-1068	第2次 S B 10 (F66 pit3)	S B 10 土製器 砂皿	不明	不明	-	口縁 小片		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	赤灰5YR7/6	
93	11 1071	第2次 S B 10 (F67 pit2)	S B 10 土製器 砂皿	不明	不明	-	口縁 小片		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	黄緑5YR7/8	
94	11-1078	第2次 S B 17 (F72 pit5)	S B 17 土製器 砂皿	不明	不明	-	口縁 小片		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	赤黒5YR5/8	
95	11-1077	第2次 S B 17 (F72 pit5)	S B 17 土製器 砂皿	不明	不明	-	口縁 小片		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	黄5YR6/8	
96	11-1076	第2次 S B 17 (F72 pit5)	S B 17 土製器 砂皿	不明	不明	-	口縁 小片		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	黄2.5YR7/8	
97	11-1074	第2次 S B 17 (F72 pit2)	S B 17 土製器 砂皿	(13)	不明	-	上 片		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	黒い黄5YR6/4	2次焼成
98	11-1075	第2次 S B 17 (F72 pit2)	S B 17 土製器 砂皿	不明	不明	-	口縁 小片		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	赤灰2.5YR/4	
99	11-1073	第2次 S B 17 (F72 pit8)	S B 17 土製器 砂皿	(14)	3.5	高さ (7)	34		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	灰白5Y7/1	
100	11-0969	第1次 S E 8	C28 土製器 砂皿	(16)	4.0	(8)	高さ 34		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	黒い黄7.5YR5/4	口縁部
101	11-0901	第1次 S E 8	C28 土製器 砂皿	11	2.4	高さ 6	34		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	灰白10YR/1	
102	11-0964	第1次 S E 8	C28 土製器 砂皿	(9)	2.7	高さ 5.2	後面は 底面		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	灰白10YR/1	裏の縁が直
103	11-0972	第1次 S E 8	C28 土製器 砂皿	(16)	5.3	高さ 9.0	34		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	灰白10YR/1	
104	11-0973	第1次 S E 8	C28 土製器 砂皿	15.8	4.9	高さ 6.4	口縁 不明		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	灰白10Y7/1	
105	11-0903	第1次 S E 8	C28 土製器 砂皿	17.5	5.3	高さ 6.4	後面は 底面		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	灰白10Y7/1	
106	11-0901	第1次 S E 8	C28 土製器 砂皿	(16)	5.2	高さ 6.4	34		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	灰白10Y7/1	
107	11-0902	第1次 S E 8	C28 土製器 砂皿	(17)	5.0	高さ 6.8	後面は 底面		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	灰白10Y8/1	
108	11-0906	第1次 S F 8	C28 土製器 砂皿	(17)	5.3	高さ 7.6	後面は 底面		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	灰白10Y7/1	
109	11-0905	第1次 S F 8	C28 土製器 砂皿	不明	不明	高さ 5.6	口縁 小片		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	灰白10Y7/1	
110	11-0907	第1次 S D 1	D 8 土製器 砂皿	9.8	1.3	-	口縁 不明		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	黒い黄10YR6/4	
111	11-0908	第1次 S D 1	D 8 土製器 砂皿	10.2	1.6	-	口縁 不明		口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	口縁部は口縁部、後面は口縁部 にのみ	量	黒	黄緑5YR7/6	

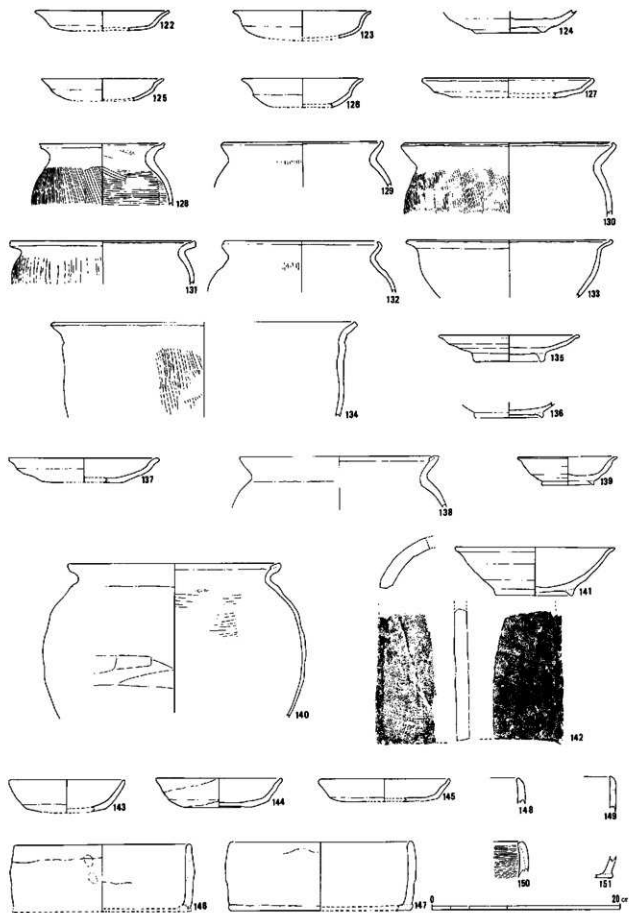
第6-3表 出土遺物観察表



第14图 出土遺物実測図(1:4, 84は1:2)

遺物番号	発掘番号	出土遺物位置	種類	形状	口径 cm	高さ cm	底径 cm	底面形状	器種の特徴	技法の特徴	胎土	表面	色調	備考
112	11-0083	第1次 SD1	B8	土製 鉢	(14)	—	3.7	円	外壁は草履的 外縁	赤褐色ロコナダ、底面へ より赤褐色、ロクロ糸輪 付あり	砂粒含	黄	青灰SDG5/1	
113	11-1116	第2次 SD1	G9	土製 鉢	不明	不明	高台 (16)	底平 瓦	底内外縁	—	砂粒含	黄	外壁 黄灰SDH4/1 内面 青灰SD6/1	
114	11-0011	第1次 SD1	B8	土製 鉢	不明	不明	—	円	生割・ 底面平	底面に沈積 層に沈着	砂粒含	黄、白 黒粒	青灰SD6/1	
115	11-1126	第2次 SD11	D67	土製 鉢	12.6	3.6	—	円	底面平	口縁部コナダ、底面赤 褐色、胎土層巻き上げ	黄	黄	黄灰SD10YR8/3	
116	11-1128	第2次 SD11	G69	土製 鉢	(15)	2.7	—	円	—	口縁部コナダ、底面赤 褐色	黄	黄	黄灰SD10YR8/3	
117	11-1127	第2次 SD11	C66	土製 鉢	不明	不明	—	口縁 小片	—	内面ナシ、外壁ハナシ	黄	黄	こぶい-黄7.5YR7/4	
118	11-1129	第2次 SD11	C66	土製 鉢	(10)	1.7	高台 5.0	底平 瓦	—	口縁部コナダ、底面赤褐色 ハナシ・内面ナシ	黄、白 黒粒	黄	黄灰SD10YR8/6	ロクロ製
119	11-1130	第2次 SD11	C66	土製 鉢	(12)	不明	—	口縁 小片	—	口縁部コナダ、底面赤 褐色	砂粒含	黄	こぶい-黄7.5YR5/3	
120	11-1132	第2次 SD11	E67	土製 鉢	不明	不明	—	口縁 小片	口縁部外縁	内外壁とも赤褐色に 染め	黄、白 黒粒	黄	明オリーブ/灰 2.5YR7/1	
121	11-1133	第2次 SD24	D67	土製 鉢	不明	不明	高台 (7)	底平 瓦	—	ロクロナダ	黄	黄	灰SD7.5Y7/1	
122	11-1119	第2次 SD24	E79	土製 鉢	(14)	2.1	—	口縁 小片	—	口縁部コナダ、底面赤 褐色	黄	黄	黄灰SD10YR8/8	
123	11-1118	第2次 SD24	E78	土製 鉢	(14)	不明	—	口縁 小片	—	口縁部コナダ、底面赤 褐色	砂粒含	黄	黄灰SD10YR8/8	
124	11-1117	第2次 SD27	E78	土製 鉢	不明	不明	高台 7.0	底面 平瓦	高台部二角部	ロクロナダ、底面赤褐色 、胎土層	砂粒含	黄	灰白SD7/8	
125	11-0038	第1次 SK6	B23	土製 鉢	(13)	不明	—	口縁 小片	—	口縁部コナダ、底面赤 褐色	黄	黄	黄灰SD10YR8/4	
126	11-0041	第1次 SK6	B24	土製 鉢	(13)	不明	—	口縁 小片	—	口縁部コナダ、底面赤 褐色	砂粒含	黄	黄SD7/8	
127	11-1115	第2次 SK6	G72	土製 鉢	(18)	不明	—	口縁 小片	—	口縁部コナダ、底面赤 褐色	黄	黄	黄SD6/8	
128	11-1114	第2次 SK6 D77付	G72	土製 鉢	(12)	不明	—	上縁 小片	—	口縁部コナダ、底面赤 褐色ハナシ	黄	黄	こぶい-黄SD6/4	
129	11-0042	第1次 SK6	B28	土製 鉢	(17)	不明	—	口縁 小片	—	口縁部コナダ、胎土外 縁にハナシが残る	黄	黄	こぶい-黄SD10YK7/4	
130	11-0033	第1次 SK6	B24	土製 鉢	(22)	不明	—	上縁 小片	—	口縁部コナダ、胎土外 縁にハナシ・内面ナシ	砂粒含	黄	こぶい-黄SD10YR8/3	
131	11-0036	第1次 SK6	B28	土製 鉢	(20)	不明	—	口縁 小片	—	口縁部コナダ、胎土外 縁にハナシ・内面ナシ	砂粒含	黄	黄SD7/8	
132	11-0043	第1次 SK6	B24	土製 鉢	(16)	不明	—	口縁 小片	—	口縁部コナダ、胎土外 縁にハナシ・内面ナシ	砂粒含	黄	黄SD7/8	
133	11-0055	第1次 SK6	B28	土製 鉢	不明	不明	—	口縁 小片	—	口縁部コナダ	砂粒含	黄	黄SD7/8	
134	11-0059	第1次 SK6	B28	土製 鉢	不明	不明	—	口縁 小片	—	口縁部コナダ、胎土外 縁にハナシ・内面ナシ	黄	黄	黄SD10YR8/3	
135	11-0076	第1次 SK6	B28	土製 鉢	(15)	2.8	高台 (7)	円	口縁部新折り返 す	口縁部コナダ、底面赤 褐色、胎土層巻き上げ、 ロクロ糸輪付あり	黄	黄	黄SD7.5YR8/3	
136	11-0037	第2次 SK9	H28	土製 鉢	不明	不明	高台 (7)	底平 瓦	—	口縁部コナダ、底面赤 褐色	黄	黄	灰7.5Y6/1	
137	11-0089	第1次 SK9	C40	土製 鉢	(16)	2.6	—	円	—	口縁部コナダ、底面赤 褐色	黄	黄	こぶい-黄SD10YK7/2	
138	11-0095	第1次 SK9	C40	土製 鉢	(21)	不明	—	口縁 小片	—	口縁部コナダ	黄	黄	黄SD2.5Y6/3	
139	11-0094	第1次 SK9	C40	土製 鉢	10.6	3.0	高台 5.4	円	—	口縁部コナダ、底面赤褐色 ハナシ・内面ナシ	黄、白 黒粒	黄	灰SD10Y7/1	
140	11-1091	第2次 SK16	F69	土製 鉢	(22)	不明	—	底平 瓦	口縁部新折り返 す	口縁部コナダ、胎土外 縁にハナシ・内面ナシ	砂粒含	黄	こぶい-黄SD10YR8/3 こぶい-黄SD10YR4/3	
141	11-1082	第2次 SK16	F69	土製 鉢	(17)	5.1	高台 8.2	底面 平瓦	—	口縁部コナダ、底面赤褐色 ハナシ・内面ナシ	砂粒含	黄、白 黒粒	灰SD2.5Y6/3	
142	11-1083	第2次 SK16	F69	土製 鉢	瓦 又瓦	不明	不明	小片	—	高台ナシ・コナダ、底面 赤褐色、胎土層巻き上げ、 ロクロ糸輪付あり	砂粒含	黄	灰白SD7/1	
143	11-1143	第2次 pH2	F75	土製 鉢	(12)	不明	—	口縁 小片	—	口縁部コナダ、底面赤 褐色	砂粒含	黄	黄SD7.5YR8/6	
144	11-1142	第2次 pH2	F75	土製 鉢	(13)	3.1	—	円	—	口縁部コナダ、底面赤 褐色	黄	黄	黄SD7/8	
145	11-1141	第2次 pH2	F75	土製 鉢	(14)	2.4	—	円	—	口縁部コナダ、底面赤 褐色	砂粒含	黄	黄SD7/8	
146	11-1134	第2次 pH2	F75	土製 鉢	不明	不明	不明	小片	志保式	胎土ナシ、胎土層巻き上げ あり、胎土層巻き上げ	砂粒多 含	黄	黄SD7/8	
147	11-1136	第2次 pH2	F75	土製 鉢	不明	7.2	不明	小片	志保式	胎土ナシ、胎土層巻き上げ あり、胎土層巻き上げ	砂粒多 含	黄	黄SD7/8	
148	11-1139	第2次 pH2	F75	土製 鉢	不明	不明	不明	口縁 小片	志保式	内面ナシ、外壁赤褐色	砂粒多 含	黄	こぶい-黄SD10YK7/4	

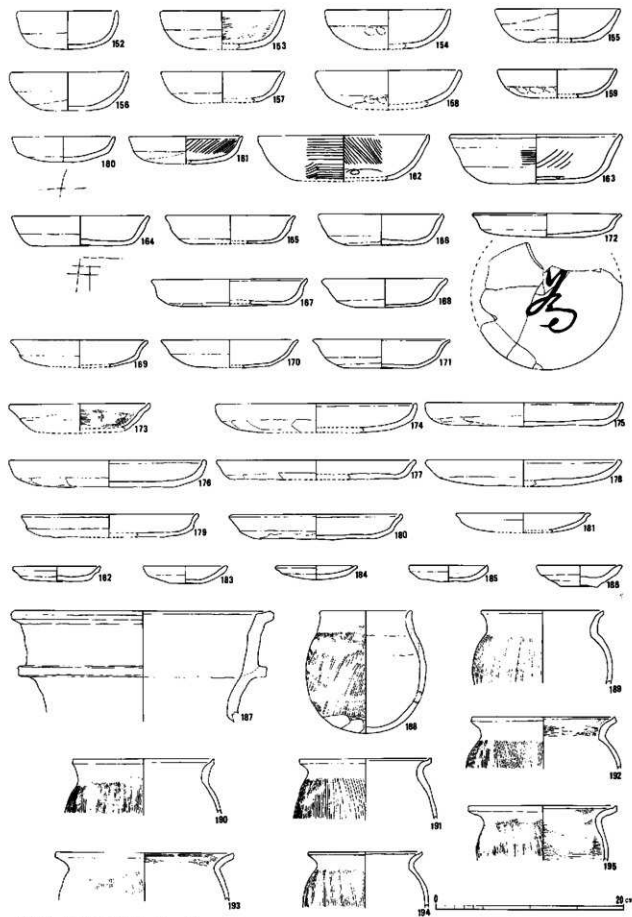
第6-4表 出土遺物観察表



第15图 出土遗物实测图(1:4)

遺物番号	発掘番号	出土遺物位置	器種	口径 cm	高さ cm	底径 cm	遺存率	形態の特徴	技法の特徴	胎土	肌色	備考		
149	11-1128	第2次 pit2	F78	輪蓋土器	不明	不明	不明	口縁 小片	志摩式	内面ナメ、外面未調製、胎土粘着仕上げ痕	砂粒多量	並	産5YR7/8	
150	11-1140	第2次 pit2	F75	輪蓋土器	不明	不明	不明	口縁 小片	志摩式	内面ハケム、外面未調製か?	砂粒多量	並	産5YR7/8	
151	11-1137	第2次 pit2	F75	輪蓋土器	不明	不明	不明	口縁 小片	志摩式	内面ナメか?、外面未調製、胎土粘着仕上げ痕	砂粒多量	並	産10R8/8	
152	11-1209	第2次 惣倉庫	F76	土師器 甕	10.4 11.6	4.1	-	完整		口縁部コナダ、底面未調製、胎土粘着仕上げ痕	並	並	黄緑10YR8/6	飲みあり
153	11-1108	第2次 惣倉庫	F79	土師器 甕	(13)	4.1	-	片		口縁部コナダ、底面未調製、内面保内ハケム、内面底面ナメ、胎土粘着仕上げ痕	並	並	黄緑10YR8/3	
154	11-1137	第2次 惣倉庫	F76	土師器 甕	(13)	4.2	-	片		口縁部コナダ、底面未調製、胎土粘着仕上げ痕	並	並	黄緑10YR8/3	
155	11-1199	第2次 惣倉庫	E79	土師器 甕	(13)	3.0	-	片		口縁部コナダ、底面未調製、胎土粘着仕上げ痕	並	並	黄緑10YR8/3	
156	11-0028	第2次 惣倉庫	G30	土師器 甕	(13)	4.1	-	片		口縁部コナダ、底面未調製、胎土粘着仕上げ痕	良	並	産5YR7/6	
157	11-1208	第2次 惣倉庫	F75	土師器 甕	(13)	3.3	-	片		口縁部コナダ、底面未調製	並	並	黄緑10YR8/3	
158	11-1200	第2次 惣倉庫	E79	土師器 甕	(13)	不明	-	片		口縁部コナダ、底面未調製、胎土粘着仕上げ痕、胎土粘着仕上げ痕	砂粒多量	並	黄緑10YR8/3	
159	11-1210	第2次 惣倉庫	H70	土師器 甕	12.6	3.0	-	口縁部 瓦割片		口縁部コナダ、胎土粘着仕上げ痕、胎土粘着仕上げ痕	砂粒多量	並	産5YR6/8	
160	11-0019	第1次 惣倉庫	A52	土師器 甕	(11)	2.7	-	片		口縁部コナダ、底面ナメのちナメ	良	並	産5YR6/8	底面内面にへ う記号、ナシ
161	11-1220	第2次 惣倉庫	E76	土師器 甕	(12)	2.9	-	片		口縁部コナダ、底面未調製、胎土粘着仕上げ痕	良	並	産5YR7/8	胎土粘着文、 ラモン紋文
162	11-1219	第2次 惣倉庫	F76	土師器 甕	(18)	(5)	-	片		外底ヘラコガキ	粗良	良	産5YR7/8	胎土粘着文、 ラモン紋文
163	11-1217	第2次 惣倉庫	F67	土師器 甕	(18)	5.2	-	片		口縁部コナダ、外底ヘラコガキ、水筒痕	粗良	良	産5YR7/8	胎土粘着文、 ラモン紋文
164	11-1216	第2次 惣倉庫	F77	土師器 甕	(14)	3.2	-	口縁部 瓦割片		口縁部コナダ、底面未調製	劣	並	産5YR7/8	底面内面にへ う記号
165	11-1218	第2次 惣倉庫	F75	土師器 甕	(13)	3.0	-	片		口縁部コナダ、底面未調製	並	並	産5YR6/8	
166	11-1211	第2次 惣倉庫	F75	土師器 甕	(13)	3.3	-	片		口縁部コナダ、底面未調製、胎土粘着仕上げ痕、胎土粘着仕上げ痕	砂粒多量	並	黄緑10YR8/4	
167	11-1307	第2次 惣倉庫	G76	土師器 甕	(16)	2.7	-	片		口縁部コナダ、底面ヘラコガキ	良	良	産5YR7/8	
168	11-1145	第2次 惣倉庫	F72	土師器 甕	(13)	3.0	-	片		口縁部コナダ、底面未調製	良	並	黄緑7.5YR8/8	
169	11-1214	第2次 惣倉庫	G77	土師器 甕	(14)	不明	-	口縁部 瓦割片		口縁部コナダ、底面未調製	良	並	黄緑7.5YR8/8	
170	11-1213	第2次 惣倉庫	G79	土師器 甕	(14)	2.9	-	片		口縁部コナダ、底面未調製	良	不良	黄緑7.5YR8/6 黄白10YR8/2	
171	11-1212	第2次 惣倉庫	F76	土師器 甕	(13)	3.0	-	片		口縁部コナダ、底面未調製、胎土粘着仕上げ痕	良	並	黄緑10YR8/6	
172	11-1148	第2次 pit8	G78	土師器 甕	(14)	2.5	-	片		口縁部コナダ、底面未調製	良	良	産5YR7/8	底面内面に黒 書きあり
173	11-1215	第2次 惣倉庫	G74	土師器 甕	(15)	不明	-	口縁 片		口縁部コナダ、底面未調製、胎土粘着仕上げ痕、内面底面ナメ	並	並	黄緑7.5YR8/6	
174	11-1202	第2次 惣倉庫	D78	土師器 甕	(21)	(3)	-	片		口縁部コナダ、底面ヘラコガキ	良	良	黄緑7.5YR7/8	
175	11-1303	第2次 惣倉庫	F76	土師器 甕	20.8	2.6	-	片		口縁部コナダ、底面ヘラコガキ	砂粒多量	良	産5YR7/8	
176	11-1204	第2次 惣倉庫	G75	土師器 甕	(21)	2.9	-	体面汚 泥付片		口縁部コナダ、底面ヘラコガキ	良	良	産5YR7/8	
177	11-1205	第2次 惣倉庫	G76	土師器 甕	(21)	2.1	-	片		口縁部コナダ、底面ヘラコガキ	良	良	黄緑7.5YR8/8	
178	11-0022	第1次 惣倉庫	D44	土師器 甕	(20)	2.8	-	片		口縁部コナダ、底面未調製	並	良	黄緑7.5YR8/8	
179	11-0030	第1次 惣倉庫	C20	土師器 甕	(15)	2.5	-	片		口縁部コナダ、底面未調製	良	良	産5YR8/8	
180	11-1206	第2次 惣倉庫	F76	土師器 甕	(18)	2.6	-	片		口縁部コナダ、底面未調製、胎土粘着仕上げ痕	良	良	産5YR7/8	
181	11-1301	第2次 惣倉庫	E78	土師器 甕	(14)	不明	-	片		口縁部コナダ、底面未調製	良	良	黄緑10YR8/6	
182	11-0047	第1次 惣倉庫	H16	土師器 甕	9.2	1.6	-	胎付 瓦割片		口縁部コナダ、底面未調製	砂粒多量	良	黄緑10YR8/3	
183	11-0048	第1次 惣倉庫	H16	土師器 甕	8.8	1.9	-	完整		口縁部コナダ、底面未調製	砂粒多量	並	黄緑7.5YR8/8	
184	11-1185	第2次 惣倉庫	F68	土師器 甕	8.3	1.5	-	口縁部 瓦割片		口縁部コナダ、底面未調製	劣	並	黄緑10YR8/8	
185	11-1186	第2次 惣倉庫	G79	土師器 小片	8.2	2.3	-	片		口縁部コナダ、底面未調製	並	並	灰白10YR8/2	

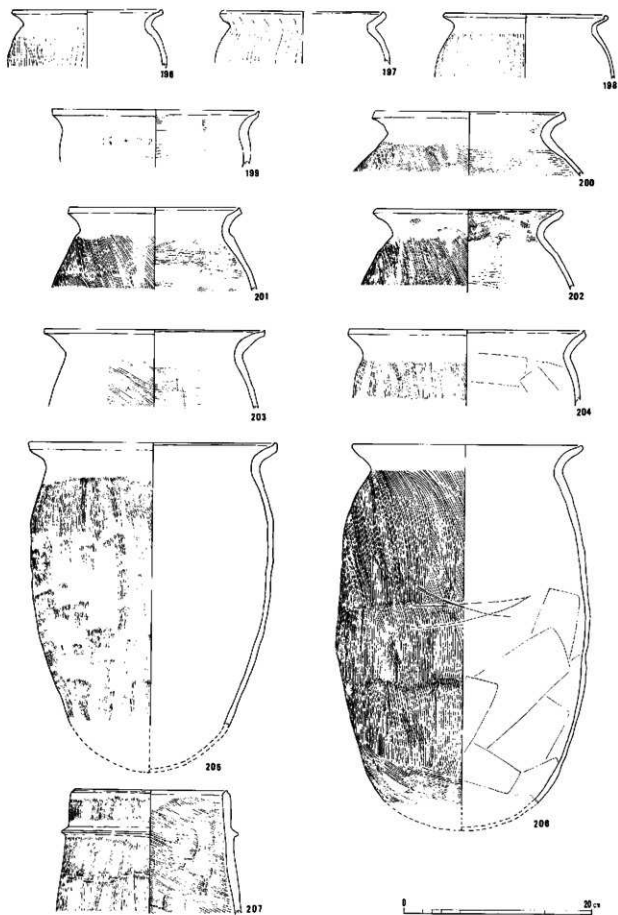
第6-5表 出土遺物観察表



第16图 出土遗物实测图 (1:4)

発出番号	山土遺物位置	遺物形状	口径 cm	高さ cm	底径 cm	遺存度	発掘の特徴	技法の特徴	出土状況	視覚	色質	備考
186	11-0018	第1次発出物 C36	土師器小皿	8.8	2.3	-	口縁に底定	ロクロコナテ、底面おこり肌	並	並	K.5-1-7#7.5YR6/3	ロクロ製
187	11-0052	第1次発出物 B12	土師器	(28)	不明	-	口縁片	二重口縁	並	並	焼7.5YR4/6	
188	11-1147	第2次発出物 C75 内5 C76-D75 外合巻	土師器	9.6	(13)	-	上半片	口縁部コナテ、胴部内面ヘアム・内面ナテ、胴部外面ヘアム・内面ナテ	並	並	黄緑2.5YR4/4 灰黒5YR5/2	
189	11-1224	第2次発出物 F76	土師器	(13)	不明	-	上半片	口縁部コナテ、胴部内面ヘアム・内面ナテ	並	並	黄緑10YR8/4	
190	11-1225	第2次発出物 E75	土師器	(15)	不明	-	口縁片	口縁部コナテ、胴部内面ヘアム・内面ナテ	並	並	黄緑2.5YR7/6 黄緑2.5Y5/1	
191	11-1229	第2次発出物 G75	土師器	(14)	不明	-	上半片	口縁部コナテ、胴部内面ヘアム・内面ナテ	並	並	黄緑2.5YR-3	
192	11-1229	第2次発出物 E76	土師器	(15)	不明	-	口縁片	口縁部コナテ、胴部内面ヘアム・内面ナテ、口縁部内面ヘアムが残る	並	並	黄緑2.5YR/3	
193	11-0023	第1次発出物 C20	土師器	(18)	不明	-	口縁片	口縁部コナテ、胴部内面ヘアムが残る	並	並	K.5-1-7#7.5YR5/3	
194	11-1122	第2次発出物 E75	土師器	(12)	不明	-	内面片	口縁部コナテ、胴部内面ヘアム・内面ナテ	並	並	黄緑2.5YR/3	
195	11-0016	第1次発出物 C20	土師器	(16)	不明	-	口縁片	口縁部コナテ、胴部内面ヘアム	並	並	黄緑5YR5/4	内面保存者
196	11-0014	第1次発出物 A20	土師器	(16)	不明	-	口縁片	口縁部コナテ、胴部内面ヘアム	並	不良	黄緑7.5YR5/3	二次焼成
197	11-0044	第1次発出物 B28	土師器	(17)	不明	-	口縁片	口縁部コナテ、胴部内面ヘアム	並	並	焼2.5YR7/6	
198	11-1223	第2次発出物 F76	土師器	(17)	不明	-	上半片	口縁部コナテ、胴部内面ヘアム	並	並	焼2.5YR7/8	
199	11-1121	第2次発出物 E75	土師器	(22)	不明	-	口縁片	口縁部コナテ、胴部内面ヘアム	並	並	黄緑7.5YR5/8	
200	11-1226	第2次発出物 F76	土師器	(20)	不明	-	口縁片	口縁部コナテ、胴部内面ヘアム	並	並	黄緑2.5YR/4	
201	11-1227	第2次発出物 C77	土師器	(18)	不明	-	上半片	口縁部コナテ、胴部内面ヘアム	並	並	黄緑10YR8/4	
202	11-0017	第1次発出物 D9	土師器	(20)	不明	-	上半片	口縁部コナテ、胴部内面ヘアム	並	並	黄緑10YR8/3	
203	11-1222	第2次発出物 H76	土師器	(23)	不明	-	口縁片	口縁部コナテ、胴部内面ヘアム	並	並	黄緑2.5YR/3	外面に保存者
204	11-1221	第2次発出物 G75	土師器	(25)	不明	-	口縁片	口縁部コナテ、胴部内面ヘアム・内面ヘアム	並	並	K.5-1-7#7.5YR7/4	
205	11-1231	第2次発出物 G76	土師器	(26)	不明	-	片	口縁部コナテ、胴部内面ヘアム・内面ナテ	並	並	黄緑10YR8/4	
206	11-1230	第2次発出物 F76	土師器	(25.6)	不明	-	口縁片 胴部2片 底面片	口縁部コナテ、胴部内面ヘアム・内面ヘアム	並	並	黄緑3.5YR/3	胴部内面ヘアムに付等
207	11-1151	第2次発出物 R75	土師器 筒状土器	(16)	不明	-	上半片	内面ヘアム	並	並	黄緑10YR7/6	
208	11-1165	第2次発出物 G74	土師器 小片	不明	不明	不明	小片	内面ヘアム、底面おこり肌	並	並	黄緑7.5YR/8	粘土分材料
209	11-1165	第2次発出物 B72	土師器 不明	4.6	不明	不明	小片	内面ヘアム、底面おこり肌、底面おこり肌、粘土分等上げ肌	並	並	黄緑2.5YR4/3 黄緑2.5YR7/8	粘土分材料
210	11-1166	第2次発出物 B77	土師器 不明	5.3	不明	不明	小片	内面ヘアム、外側おこり肌、底面おこり肌	並	並	黄緑7.5YR5/8	粘土分材料
211	11-1164	第2次発出物 G74	土師器 不明	不明	不明	不明	小片	内面ヘアム、外側おこり肌、粘土分等上げ肌、外側おこり肌	並	並	黄緑5YR7/8	粘土分材料
212	11-1163	第2次発出物 C74	土師器 不明	6.8	不明	不明	小片	内面ヘアム、外側おこり肌、底面おこり肌	並	並	黄緑7YR/8	粘土分材料
213	11-0060	第1次発出物 B28	土師器 不明	不明	不明	不明	底面片	内面ヘアム、内面ヘアム	並	並	黄緑5YR5/8	A類
214	11-1192	第2次発出物 F79	土師器 不明	不明	不明	不明	底面片	内面ヘアム、内面ヘアム	並	並	K.5-1-7#7.5YR7/4	A類
215	11-1190	第2次発出物 D78	土師器 不明	(19)	不明	-	口縁片	内面ヘアム、外側おこり肌、外側おこり肌	並	並	黄緑10YR8/6	A類
216	11-1144	第2次発出物 F76 内5 F77 外合巻	土師器	(16)	不明	-	片	口縁部コナテ、内面ヘアム・内面ナテ	並	並	黄緑10YR8/6	A類
217	11-1020	第2次発出物 F68	土師器 不明	(8.4)	3.4	不明	片	口縁部コナテ、内面ヘアム・内面ナテ	並	並	黄緑7.5YR/1	ラケット型
218	11-0546	第1次発出物 B84	土師器 不明	(10)	1.4	不明	片	口縁部コナテ、底面おこり肌	並	並	K.07.5Y7/1	縮文
219	11-1160	第2次発出物 F79	土師器 不明	(10)	3.8	-	片	口縁部コナテ、底面おこり肌、底面おこり肌、底面おこり肌	並	並	黄緑10G6/1	
220	11-1166	第2次発出物 E75	土師器 不明	(14)	3.8	-	片	口縁部コナテ、底面おこり肌、底面おこり肌	並	並	黄緑10Y7/1	
221	11-1167	第2次発出物 C76	土師器 不明	7.6	2.9	不明	片	口縁部コナテ、底面おこり肌	並	並	K.07YR/1	黄、白、赤
222	11-1174	第2次発出物 F76-F77 外合巻	土師器 不明	(11)	不明	-	片	口縁部内面に並	並	並	K.06/	黄、白、赤

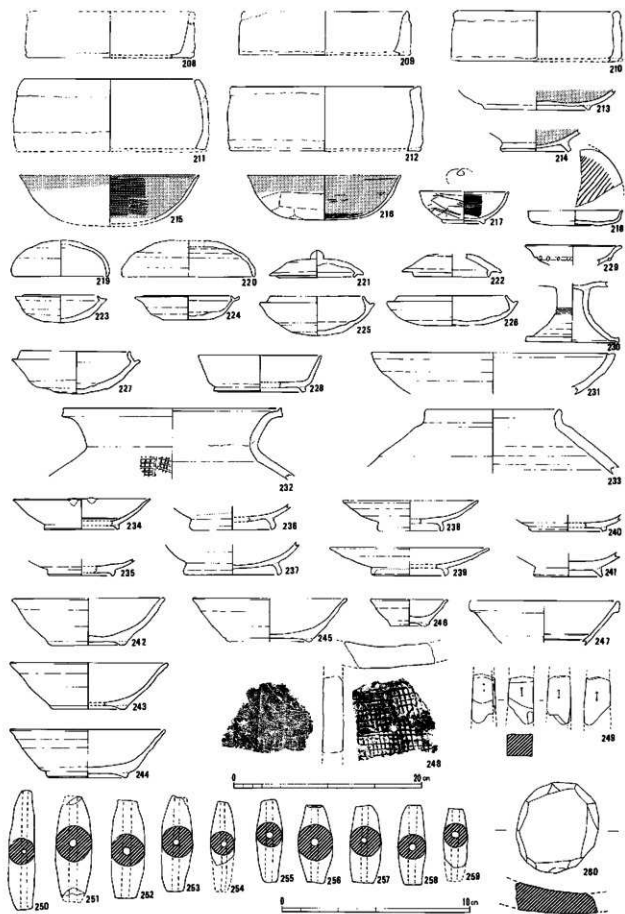
第6-6表 出土遺物観察表



第17图 出土遗物实图(1:4)

遺物 番号	出土遺物位置	形 態	材 質	口 径	高 さ	口 縁 径	底 径	底 厚	底 面	取 付 部	取 付 部 の 特 徴	取 付 部 の 特 徴	土 質	埋 藏 状 況	色 調	備 考
223	11-1171 第2次 古瓦倉	B75	硬質砂 灰	φ8.9	3.9	-	ほぼ同 径	-	ほぼ 平坦	たれあがり口縁 く内縁	コクロナグ、蓋部ヘウカリ 不顕微	砂粘土 良	良	外周黄緑108K31/ 内周黄緑108G6/1	斑々あり	
224	11-0013 第1次 古瓦倉	B8	硬質砂 灰	φ9	2.4	-	同	-	ほぼ 平坦	たれあがり口縁 く内縁	コクロナグ、蓋部ヘウカリ 不顕微	砂粘土 良	良	灰白1077/1		
225	11-1170 第2次 古瓦倉	B78	硬質砂 灰	φ10	4.1	-	同	-	ほぼ 平坦	たれあがり口縁 く内縁	コクロナグ、蓋部ヘウカリ 不顕微、コクロナグ 取付部	良	良	灰白78/1		
226	11-0075 第1次 古瓦倉	C20	硬質砂 灰	φ11	3.1	-	同	-	ほぼ 平坦	たれあがり口縁 く内縁	コクロナグ、蓋部コクロナ グ、コクロナグ取付部	砂粘土 良	良	外周 灰白78/1 内周 灰白577/1		
227	11-0012 第1次 古瓦倉	B44	硬質砂 灰	φ12	4.5	-	同	-	ほぼ 平坦	たれあがり口縁 く内縁	コクロナグ、蓋部ヘウカリ 不顕微	良、砂 粘土	良	黄緑108G6/1		
228	11-1173 第2次 古瓦倉	B76	硬質砂 灰	φ11	3.9	再 造 (10)	同	同	ほぼ 平坦	取付部は蓋部にて 造作	コクロナグ、蓋部ヘウカリ 不顕微	精良	良	明黄108G7/1		
229	11-1178 第2次 古瓦倉	B75	硬質砂 灰	φ10	不明	不明	不明	不明	口縁 片	取付部不明	コクロナグ	良	良、砂 粘土	灰白2.5G78/1		
230	11-1179 第2次 古瓦倉	D75	硬質砂 灰	不明	不明	不明	不明	不明	口縁 片	取付部不明	コクロナグ	良	良、砂 粘土	灰白2.5G78/1		
231	11-1177 第2次 古瓦倉	F79	硬質砂 灰	φ8	不明	-	-	-	口縁 片	不明	コクロナグ	砂粘土 良	良	明黄108G7/1		
232	11-1176 第2次 古瓦倉	D76	硬質砂 灰	φ8	不明	-	-	-	口縁 片	不明	コクロナグ	良	良	黄緑108G6/1		
233	11-1175 第2次 古瓦倉	F69	硬質砂 灰	φ14	不明	-	-	-	口縁 片	不明	コクロナグ	良	良	灰白7.5Y7/1		
234	11-1149 第2次 古瓦倉	第2次 F79a3, G79a 完全	硬質砂 灰	φ14	φ3.2	高台 (9)	底面 小片	-	ほぼ 平坦	内周面とも金網の跡 あり	コクロナグ、外周コクロナ グ、取付部不明、内周 面とも金網の跡あり	精良 砂粘土	良	黄緑108G/6		
235	11-1150 第2次 古瓦倉	第2次 F79	硬質砂 灰	不明	不明	不明	不明	不明	高台 小片	不明	コクロナグ、外周コクロナ グ、取付部不明、内周 面とも金網の跡あり	精良 砂粘土	良	黄緑108G/6		
236	11-1158 第2次 古瓦倉	G77	硬質砂 灰	不明	小判	高台 (9)	底面 小片	-	ほぼ 平坦	不明	コクロナグ、外周コクロナ グ、取付部不明、内周 面とも金網の跡あり	砂粘土 良	良	灰白7.5Y7/1		
237	11-1157 第2次 古瓦倉	G77	硬質砂 灰	不明	不明	高台 10.0	底面 小片	-	ほぼ 平坦	不明	コクロナグ、外周コクロナ グ、取付部不明、内周 面とも金網の跡あり	砂粘土 良	良	灰白7.5Y7/1		
238	11-1161 第2次 古瓦倉	F77	硬質砂 灰	不明	不明	高台 (6)	底面 小片	-	ほぼ 平坦	不明	コクロナグ、外周コクロナ グ、取付部不明、内周 面とも金網の跡あり	砂粘土 良	良	灰白7.5Y7/1		
239	11-0067 第1次 古瓦倉	D28	硬質砂 灰	φ17	3.0	高台 (7)	底面 小片	-	ほぼ 平坦	不明	コクロナグ、外周コクロナ グ、取付部不明、内周 面とも金網の跡あり	砂粘土 良	良	灰白7.5Y7/1		
240	11-1152 第2次 古瓦倉	F78	硬質砂 灰	不明	不明	高台 (8)	底面 小片	-	ほぼ 平坦	不明	コクロナグ、外周コクロナ グ、取付部不明、内周 面とも金網の跡あり	砂粘土 良	良	灰白7.5Y7/1		
241	11-1156 第2次 古瓦倉	G79	硬質砂 灰	不明	不明	高台 (7)	底面 小片	-	ほぼ 平坦	不明	コクロナグ、外周コクロナ グ、取付部不明、内周 面とも金網の跡あり	砂粘土 良	良	灰白7.5Y7/1		
242	11-1153 第2次 古瓦倉	G79	硬質砂 灰	φ16.0	3.0	高台 7.4	底面 小片	-	ほぼ 平坦	不明	コクロナグ、外周コクロナ グ、取付部不明、内周 面とも金網の跡あり	砂粘土 良	良	灰白7.5Y7/1		
243	11-1154 第2次 古瓦倉	F69	硬質砂 灰	φ16.8	4.9	高台 7.6	底面 小片	-	ほぼ 平坦	不明	コクロナグ、外周コクロナ グ、取付部不明、内周 面とも金網の跡あり	砂粘土 良	良	灰白7.5Y7/1		
244	11-0068 第1次 古瓦倉	C24	硬質砂 灰	φ17	5.1	高台 6.0	底面 小片	-	ほぼ 平坦	不明	コクロナグ、外周コクロナ グ、取付部不明、内周 面とも金網の跡あり	砂粘土 良	良	灰白7.5Y7/1		
245	11-0921 第1次 古瓦倉	B16	硬質砂 灰	φ18	4.6	高台 3.0	底面 小片	-	ほぼ 平坦	不明	コクロナグ、外周コクロナ グ、取付部不明、内周 面とも金網の跡あり	砂粘土 良	良	灰白7.5Y7/1		
246	11-0010 第1次 古瓦倉	B8	硬質砂 灰	φ8	2.9	高台 4.0	底面 小片	-	ほぼ 平坦	不明	コクロナグ、外周コクロナ グ、取付部不明、内周 面とも金網の跡あり	砂粘土 良	良	灰白7.5Y7/1		
247	11-0950 第1次 古瓦倉	B32	硬質砂 灰	φ16	不明	不明	不明	不明	口縁 片	不明	不明	砂粘土 良	良	灰白7.5Y7/1		
248	11-0077 第1次 古瓦倉	G64	瓦 平瓦	全長 不明	全高 不明	厚さ 2.3	小片	-	不明	不明	不明	砂粘土 良	良	明黄108Y8/6		
249	11-1152 第2次 古瓦倉	G69	石製 土器	全長 不明	全高 不明	厚さ 2.3	小片	-	不明	不明	不明	砂粘土 良	良	灰白2.5Y7/1	内面使用	
250	11-1181 第2次 古瓦倉	F66	土製 土器	全長 6.4	全高 1.4	口径 0.3	定形	不明	不明	不明	不明	土質 良	良	灰白2.5Y8/4	重量5.7g	
251	11-1188 第2次 古瓦倉	G78	土製 土器	全長 6.4	全高 1.9	口径 0.4	定形	不明	不明	不明	不明	土質 良	良	灰白2.5Y8/3	重量13.0g	
252	11-1183 第2次 古瓦倉	E75	土製 土器	全長 5.2	全高 1.8	口径 0.4	定形	不明	不明	不明	不明	土質 良	良	灰白2.5Y8/6	重量14.9g	
253	11-1186 第2次 古瓦倉	F78	土製 土器	全長 5.0	全高 1.6	口径 0.3	定形	不明	不明	不明	不明	土質 良	良	灰白2.5Y8/3	重量12.3g	
254	11-1187 第2次 古瓦倉	F78	土製 土器	全長 4.2	全高 1.2	口径 0.3	約形	不明	不明	不明	不明	土質 良	良	灰白2.5Y8/6	重量4.4g	
255	11-1184 第2次 古瓦倉	G77	土製 土器	全長 4.4	全高 1.3	口径 0.3	定形	不明	不明	不明	不明	土質 良	良	灰白2.5Y8/6	重量7.2g	
256	11-1180 第2次 古瓦倉	D61	土製 土器	全長 4.2	全高 1.9	口径 0.4	定形	不明	不明	不明	不明	土質 良	良	灰白2.5Y8/8	重量13.2g	
257	11-1182 第2次 古瓦倉	G68	土製 土器	全長 4.0	全高 1.6	口径 0.3	定形	不明	不明	不明	不明	土質 良	良	灰白2.5Y8/3	重量9.7g	
258	11-1185 第2次 古瓦倉	E78	土製 土器	全長 4.2	全高 1.5	口径 0.3	定形	不明	不明	不明	不明	土質 良	良	灰白2.5Y8/2	重量8.5g	
259	11-1146 第2次 古瓦倉	B78	土製 土器	全長 3.0	全高 1.2	口径 0.3	約形	不明	不明	不明	不明	土質 良	良	灰白2.5Y8/3	重量4.9g	
260	11-1180 第2次 古瓦倉	G54	瓦工 土器	全長 4.3	全高 1.0	口径 1.3	定形	不明	不明	不明	不明	砂粘土 良	良	灰白2.5Y8/4	重量33.9g	

第6-7表 出土遺物観察表



第18図 出土遺物実測図 (1:4, 250~260は1:2)

ある。住居跡は少ないが、この時期の遺物は、遺物包含層や奈良・平安時代の遺構埋土にも相当量みられた。東に近接する下之庄遺跡から飛鳥・奈良時代の住居が検出されていることも考え合わせると、発掘区は当該時期の集落の縁部であると考えるのが妥当であろう。

(2) 奈良時代

この時期の主な遺構には竪穴住居7棟と土坑2基がみられる。掘立柱建物はみられず、竪穴住居のみで構成された集落の可能性はある。

奈良時代から平安時代初頭にかけての集落跡は、周辺の遺跡でも数多く発掘されている。当該跡のように竪穴住居のみまたは竪穴住居を中心として構成される集落としては、奈良時代から平安時代初頭にかけての竪穴住居が34棟検出された上野垣内遺跡、竪穴住居が6棟検出された天保遺跡がみられる。一方、掘立柱建物のみまたは掘立柱建物を中心として構成された集落としては、中尾遺跡、下之庄東方遺跡等がみられる。このように竪穴住居を中心として構成される集落と、掘立柱建物を中心として構成された集落があり、当該地域における各々の集落の構成あるいは各集落間の社会的関係等について今後検討する必要がある。

(3) 平安時代

竪穴住居1棟、掘立柱建物3棟、井戸1基、溝4条、土坑3基がみられる。

竪穴住居S B28、掘立柱建物S B7・10・17、溝S D24、土坑S K6の出土遺物については、古いもの

も混入してはいたが、図示した遺物のうち土師器は概ね斎宮編年^①の平安時代前期Ⅱ期から中期のものであり、灰軸陶器皿(99)は築投室竈年^②という折戸53号窯式(10世紀)と思われる。従ってこれらの遺構は平安時代中期のものと考えてよいであろう。

掘立柱建物3棟は、いずれも5間×2間の建物であるが、棟方向は揃っておらず若干の時期差があるものと思われる。周辺の遺跡における奈良・平安時代の5間×2間、あるいは5間×3間の大型の掘立柱建物例には、下之庄東方遺跡高畑地区の掘立柱建物9・10、同遺跡四反畑地区の掘立柱建物6、片野遺跡のS B87等がある。これらの詳細な時期区分は不明であるが、両遺跡とも掘立柱建物が複数みられる集落である。当該跡においてもこうした大型の掘立柱建物が単独でみられるとは考え難く、付随する建物が発掘区外に存在して集落を形成していたものと思われる。

井戸S E8からはロクロ製の土師器杯(100)、山茶碗(103~108)等が出土している。ロクロ土師器杯(100)は斎宮編年^③の平安時代後期から末期のものであり、山茶碗は藤澤編年^④のⅢ段階5型式に比定できそうであり、従ってS E8の時期は平安時代末期と考えよう。後期および末期の遺構は他に溝(S D1・11・27)、土坑(S K9・16)がみられる。この時期の住居跡は発掘区の範囲外にあると推定される。

(河北秀実)

〔註〕

① a. 三重県教育委員会「三重県埋蔵文化財包蔵地一覧表(4)」1980

b. 三重県教育委員会「三重県埋蔵文化財包蔵地一覧表(5)」1981

② 三重県考古調査事務所「三重県考古調査事務所年報 1981 史跡前宮跡一発掘調査概報」1982

③ 三重県考古調査事務所「三重県考古調査事務所年報 1988 史跡前宮跡一発掘調査概報」1989

④ 「三重県埋蔵文化財年報16」三重県教育委員会 1986

⑤ 田中喜久雄「上野垣内遺跡」『昭和54年度奈良県立総合学業地域埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会 1980

⑥ 高橋自動車道(久保一帯)埋蔵文化財発掘調査概報Ⅳ 三重県教育委員会 1988

⑦ 註⑤に同じ

⑧ a. 「一級河川中村川埋蔵文化財発掘調査概報Ⅰ 下之庄東方遺跡(高畑地区)」三重県教育委員会 1987

b. 「一級河川中村川埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ 下之庄東方遺跡(小野・西反畑・夜ノ瀬地区)」三重県教育委員会 1988

⑨ 三重県考古調査事務所「高宮跡の土師器」『三重県考古調査事務所年報 1984 史跡前宮跡一発掘調査概報』1985

⑩ a. 橋崎彰一編「愛知県豊田西内南宮跡跡分布調査報告(Ⅰ)」愛知県教育委員会 1980

b. 橋崎彰一編「愛知県古楽郡跡分布調査報告(Ⅱ)」愛知県教育委員会 1983

⑪ 註⑩aに同じ

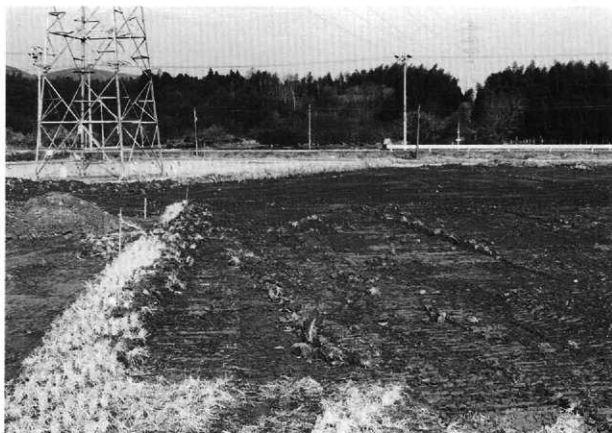
⑫ 註⑩bに同じ

⑬ 河瀬信幸「片野遺跡発掘調査報告」三重県教育委員会 1985

⑭ 註⑩に同じ

⑮ a. 藤澤良祐「瀬戸古窯址群Ⅰ」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅰ』瀬戸市歴史民俗資料館 1982

b. 藤澤良祐「穴田南宮跡発掘調査報告」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅱ』瀬戸市歴史民俗資料館 1983



調査前風景（北から）



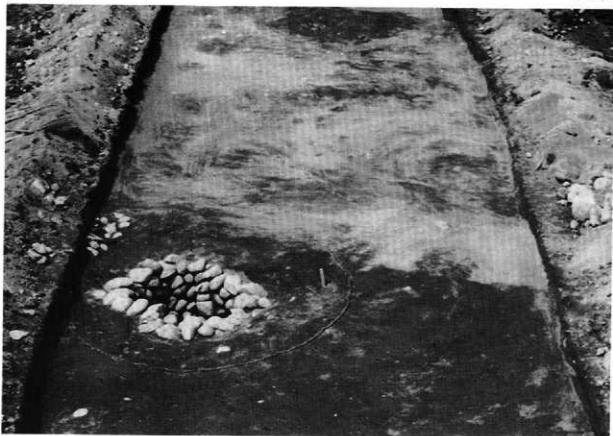
第2次調査発掘区全景（南から）



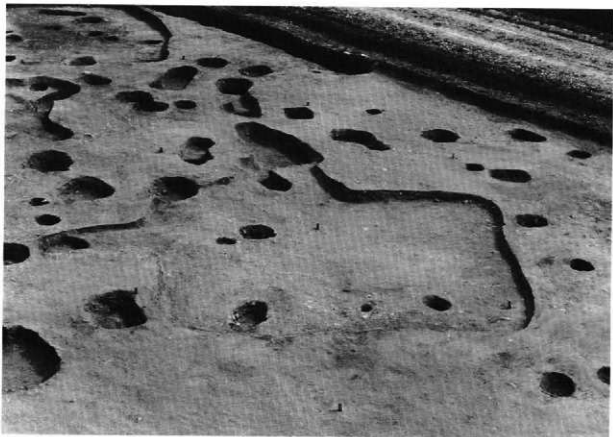
第2次調査南半部（北から）



第1次調査Bトレンチ全景（北から）



第1次調査Cトレンチ全景(南から)



S B18 (北から)

PL4



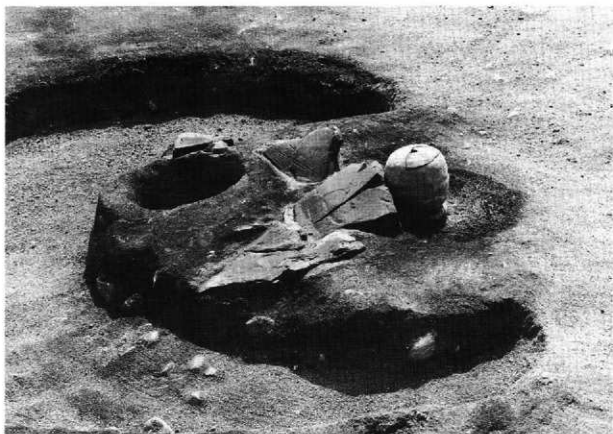
S B21 (西から)



S F23 (西から)



S F29 (南から)

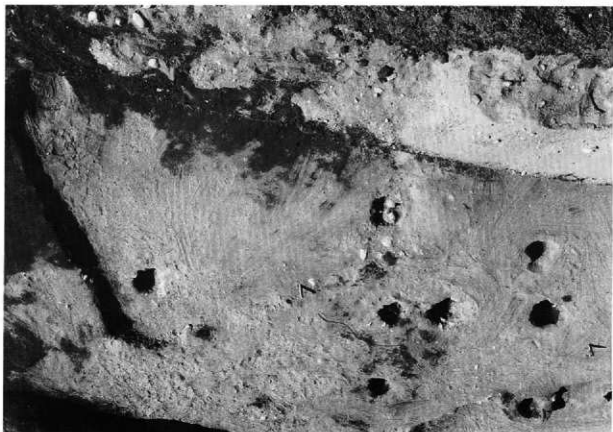


S F29 (東から)

SB4・3 (南カ)

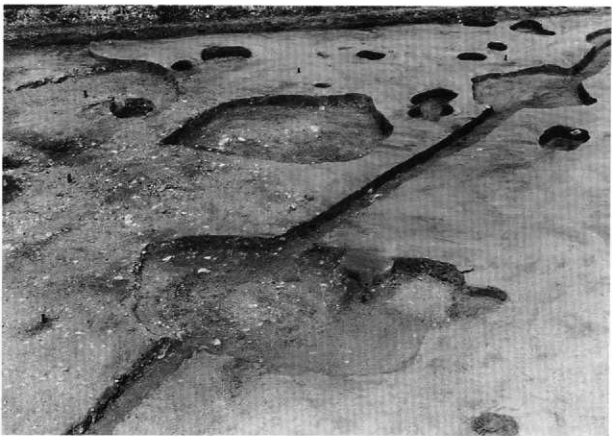


SB2 (南カ)



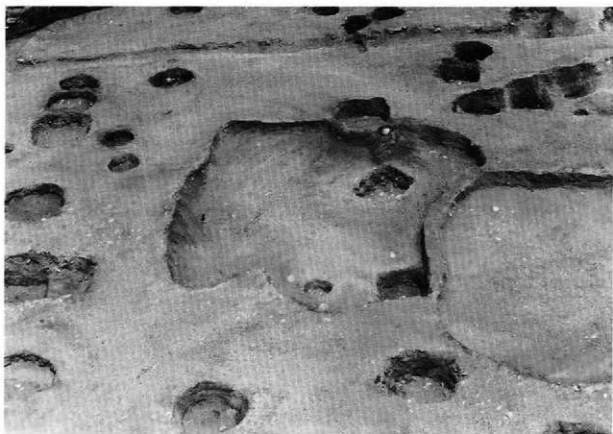


SB12 (東から)

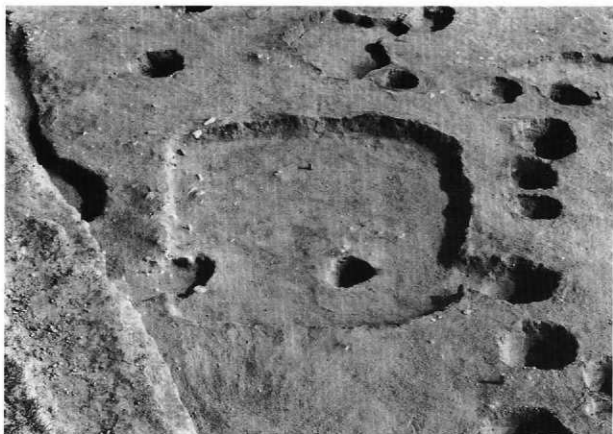


SB14・12, SD11・SK16 (西から)

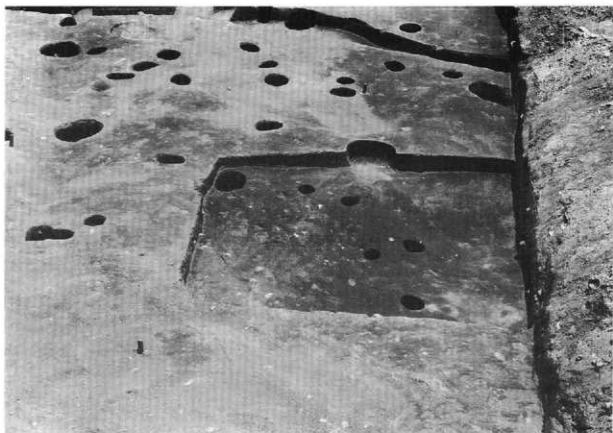
PL 8



SB19 (西から)



SB22 (北から)



SB28 (西から)

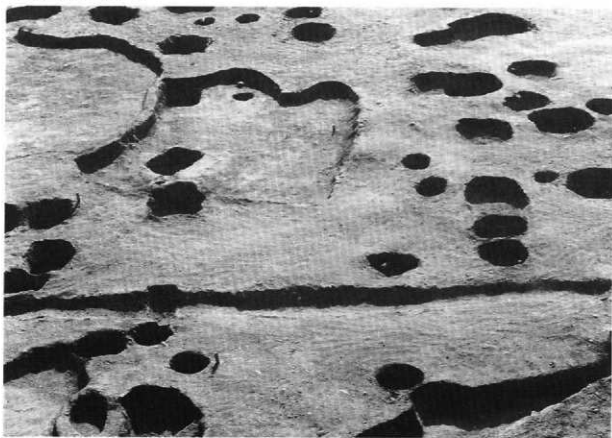


SB7 (東から)

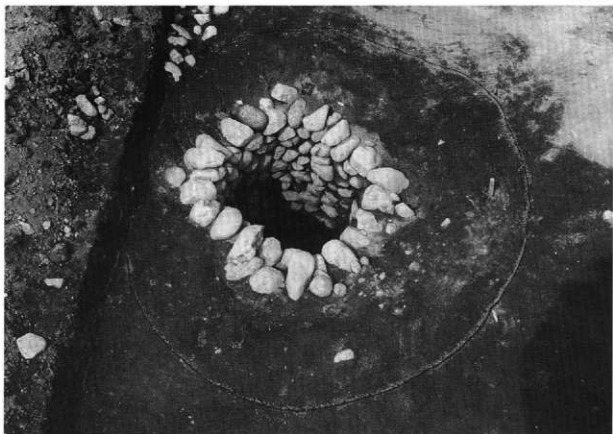
P L 10



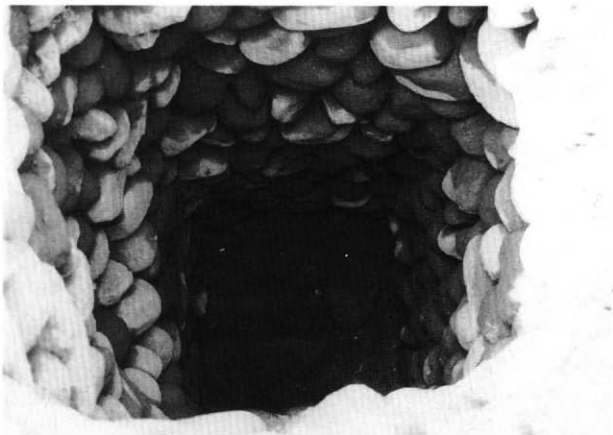
S B10, S K13 (東から)



S B17・19 (東から)

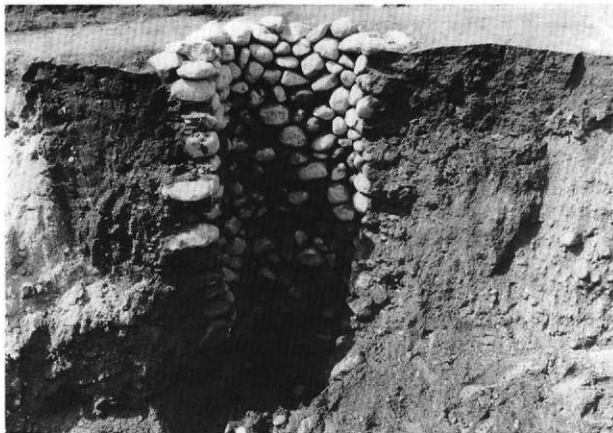


SE 8 (南から)



SE 8 石積み状況

P L12



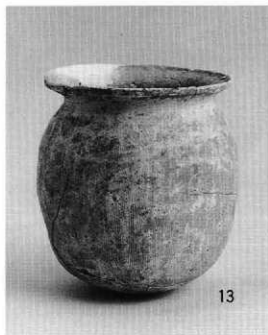
SE 8 断ら割り状況



SK 6 (南から)



12



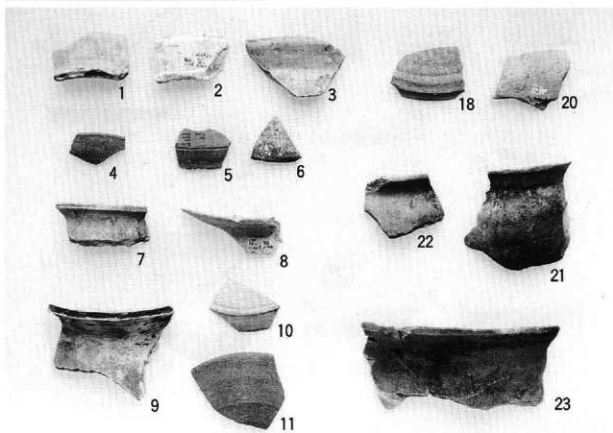
13



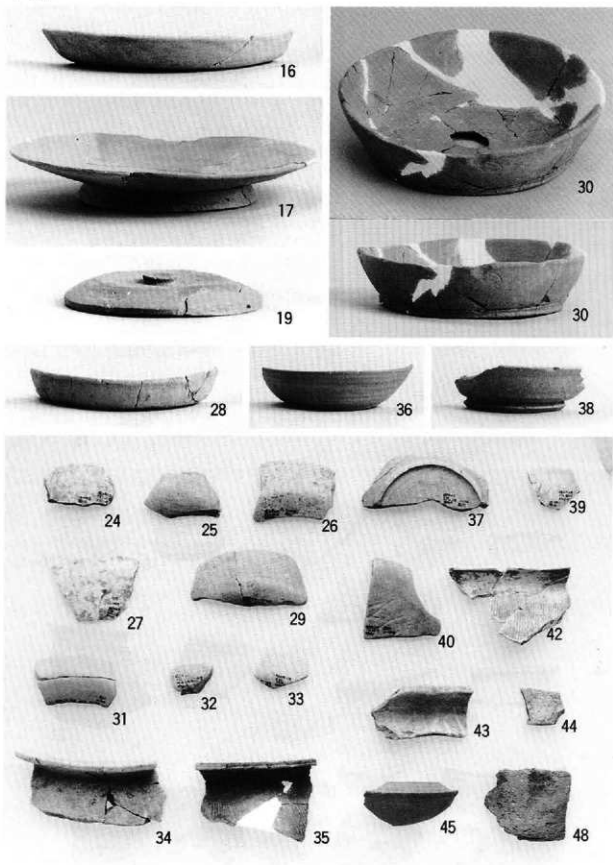
14



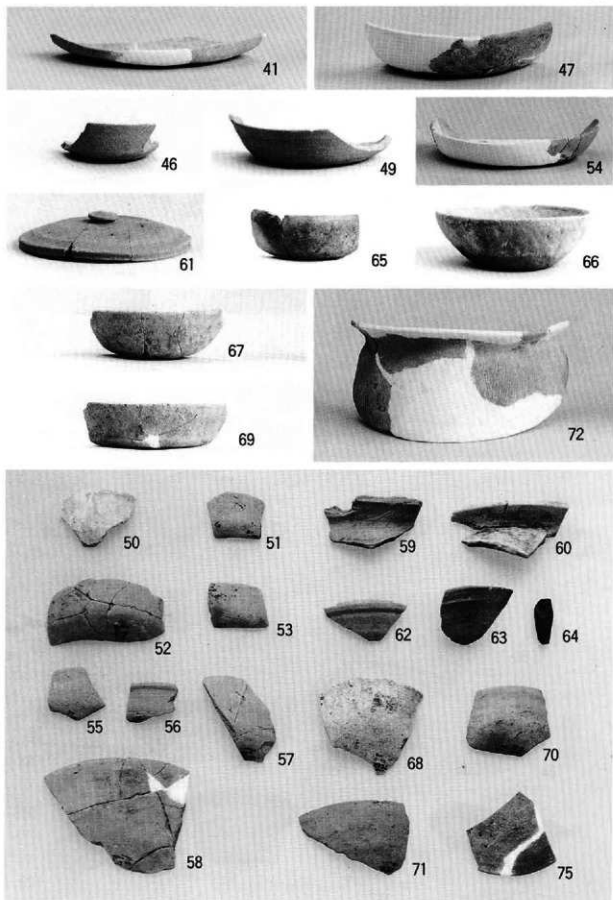
15



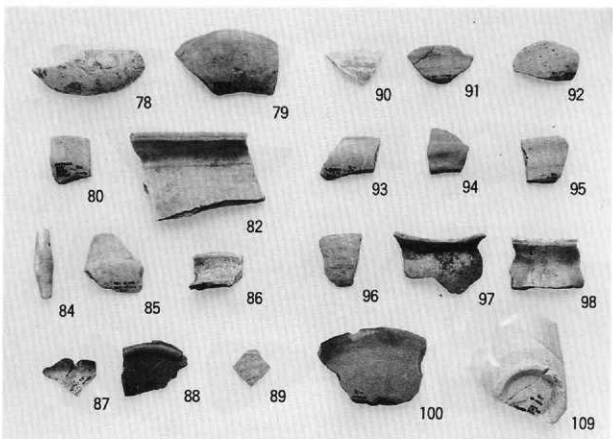
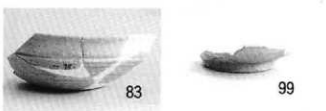
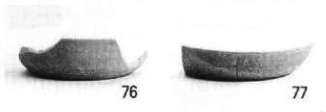
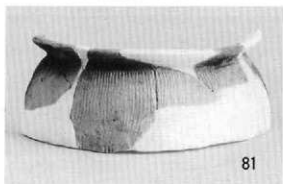
出土遺物 (1 : 3)



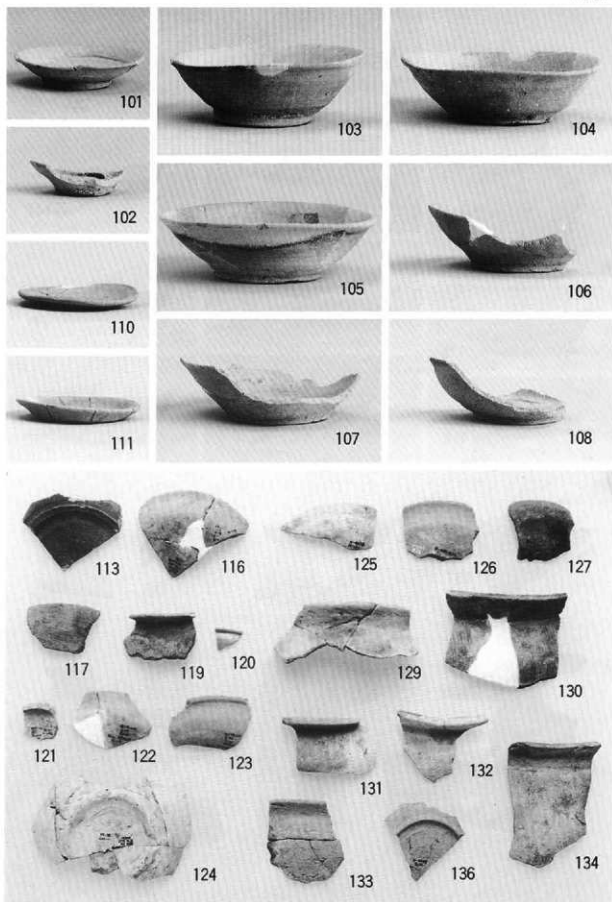
出土遺物 (1 : 3)



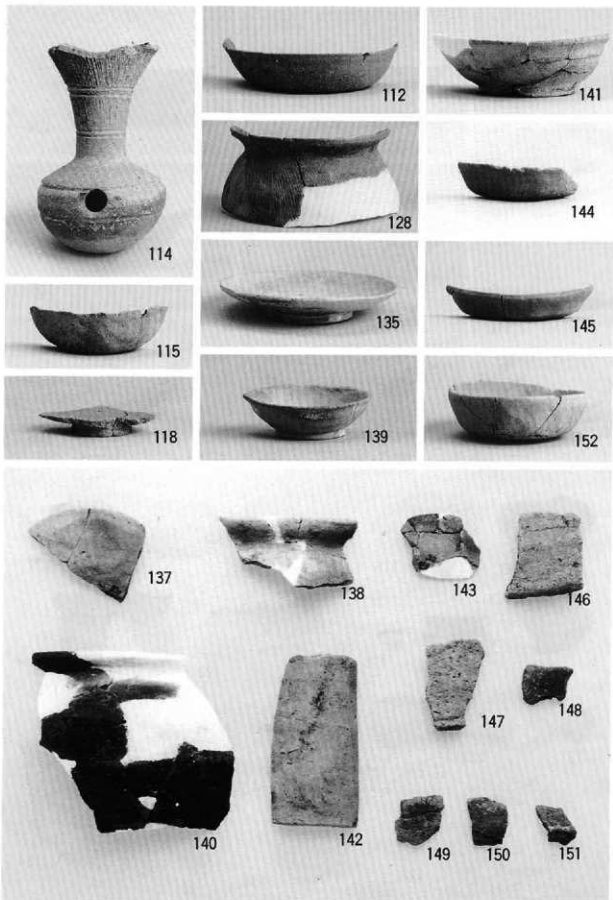
出土遺物 (1 : 3)



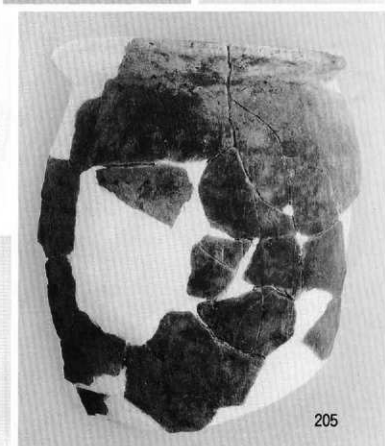
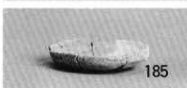
出土遺物 (1 : 3)



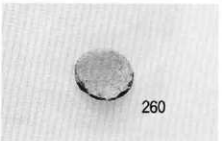
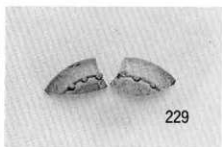
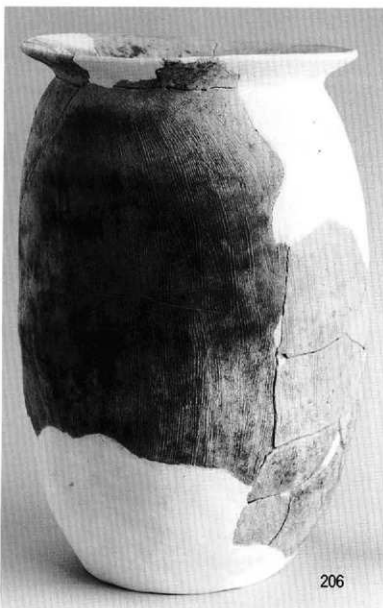
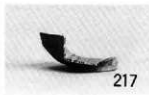
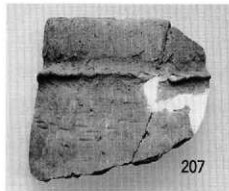
出土遺物 (1 : 3)



出土遺物 (1 : 3)



出土遺物 (1 : 3)



出土遺物 (1 : 3)

II. B地区

1. はじめに

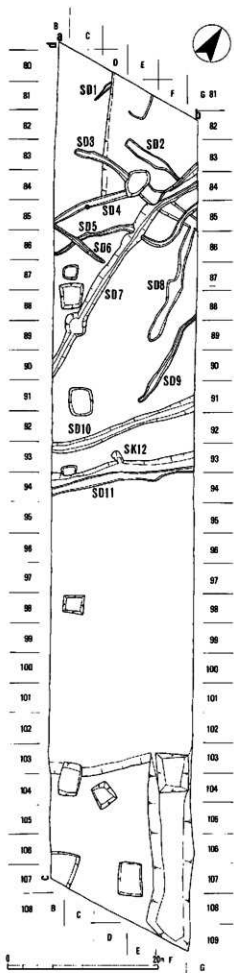
B地区は、農道ををさんでA地区の南に位置し、行政区画上是狹野町大字堀之内字菟田である。現況はA地区同様、圃場整備済みの水田で、標高は16.6m前後である。調査区の地区割り、東西、南北両方向ともA地区の第2次調査区から引き継ぎ番号を付与した。その結果、東西はB～G列、南北は79～109列までとなった。調査面積は2,200㎡、調査期間は昭和62年7月23日から同年10月1日までである。

2. 層序および遺構

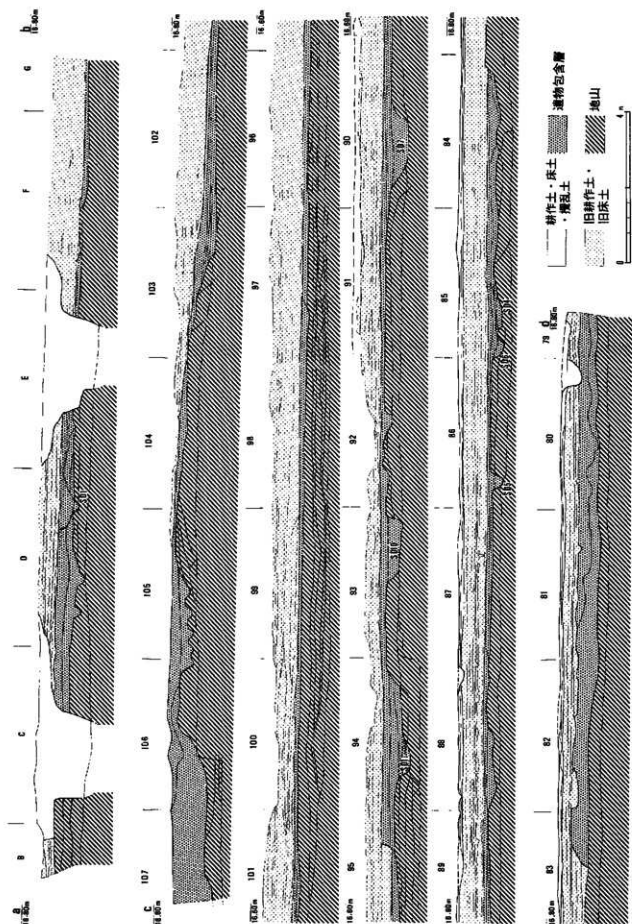
層序は耕作土・床土の下に旧耕作土と旧床土が多い所で4層（厚さ約70cm）あり、以下、褐色または灰オリーブ砂質土（遺物包含層）、褐色砂となっている。発掘区の層序および遺構の状況は北部、中央部、南部に大別できる。

北部は、A地区に隣接しており、発掘区の北端から南へ約50m、地区杭の94列付近までである。耕作土・床土の下は旧耕作土・旧床土が2～4層、約30～60cmあり、その下が褐色または灰オリーブ砂質土（遺物包含層）、褐色砂となっている。遺構検出は褐色砂の上で行ったが、その高さは標高15.4～15.8mである。北端から地区杭83列付近までは30～60cm程の厚さで灰オリーブ色または褐色をした遺物包含層がみられるが、それ以南は遺物包含層上半が後世の開墾等によって削平を受けており、20cm程の厚さで灰オリーブ色をした遺物包含層が続くが、遺物量は少なくなる。検出された遺構は、溝10条（SD1～10）と土坑1基（SK12）だけで、A地区にみられるような住居跡は検出されなかった。

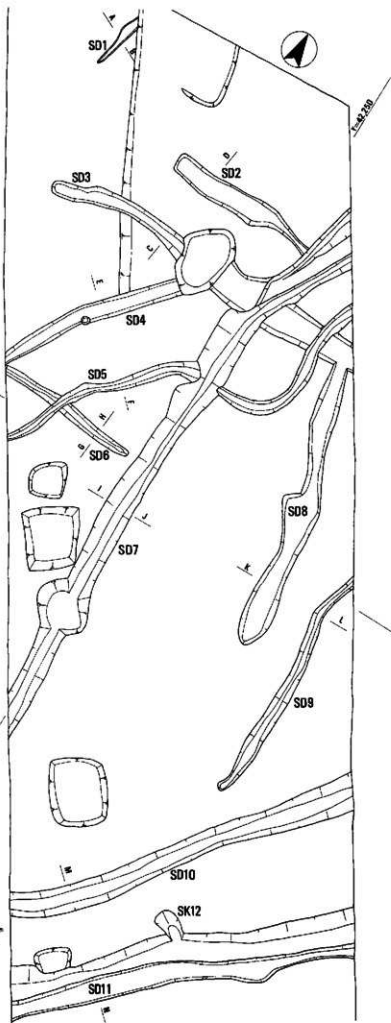
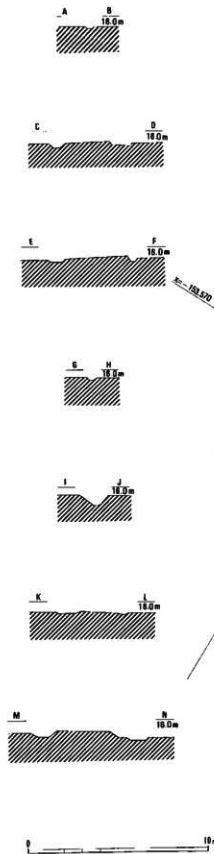
中央部は、地区杭の94列付近から104列付近までの南北約40mの間である。耕作土・床土の下は、旧耕作土・旧床土が2～4層、約40～70cmあり、その下が暗オリーブ色または灰オリーブ色をした砂質土



第19図 発掘区地区割および遺構配置図 (1:500)



第20图 B地区北壁·西壁土层断面图 (1:100)



第21图 B地区遺構実測図 (1 : 200)

(遺物包含層)、褐色砂となっている。遺物包含層は厚さ20cm前後であるが、遺物量は少ない。遺構検出は褐色砂の上面で行ったが、検出面は北部より低く標高約15.1～15.4mである。遺構は平安時代の溝が1条（SD11）検出されただけである。中央部全体が、幅約40mの東西に流れる大溝の可能性もある。

南部は地区杭の104列付近から南端までで、遺構検出面の高さは標高16.0～16.3mと再び高くなっているが、遺構は検出されなかった。随所で攪乱を受けており、遺構検出面は南に隣接するC地区北端のそれよりも約60～90cm低く、すでに削平を受けていたものと考えられる。

3. 遺物

出土遺物には、石鏡、縄文土器、土師器、製塩土器、須恵器、陶器（灰釉陶器、緑釉陶器、山茶碗、山皿）、円面硯、土鏡、瓦などがある。時代は古墳時代から平安時代にかけての物がその大半を占める。個々の遺物については、第8表の通りである。特徴的な遺物のみ、以下に若干の説明を加えておきたい。

・須恵器碗（5） 底部は丸底で、体部は直立し、口縁は直線的にやや外に開く。体部と口縁部の境に1条の沈線が走る。類例は静岡県西寺子第64号窯跡出土遺物にみられる。

各遺構については次の通りである。

(1) 溝

北部で10条、中央部で1条、計11条検出された。各溝の長さ、幅、深さ、方向および出土遺物については、第7表の通りである。なお方向の測り方は、各々の溝の比較的直線になっているところで計測した。

(2) 土坑

SK12 北部と中央部の境で検出されたもので、平面形は長さ2.0m、幅1.0mの隅丸方形で、深さは30cmである。埋土から奈良時代の須恵器杯身・杯蓋の小片等が出土している。

・須恵器蓋（10） 天井部には幅1～2mm、長さ6.6cm以上の直線状のヘラ記号がみられる。

・須恵器鉢（11） 口縁部しか残存していないため全体の器形は不明であるが、器種は一応鉢とした。界内の類例としては、阿山郡阿山町大字馬場字小倉所在の小倉C遺跡で出土している。

・土師器小皿（29・30） 口径10～11cm程のいわゆる「て」の字状口縁の小皿である。

・土師器（39～40） 杯もしくは皿の底部片であるが、外面に墨書がみられる。（39・40）は判読不能、

遺構名	長さ(m)	幅(m)	深さ(cm)	方向	出土遺物	時代
SD1	4.7以上	0.2～0.6	10～20	N14° E	須恵器平瓶(1)	古墳時代
SD2	8.6	0.4～1.5	10～20	N85° W	土師器・須恵器片	
SD3	19.0以上	0.8～0.2	10～30	N85° W	須恵器蓋・杯・土師器片	古墳時代
SD4	10.5以上	0.7～1.0	10	N35° E	土師器片	
SD5	23.2以上	0.4～0.8	20～30	—	土鏡(2)、土師器片	
SD6	8.5以上	0.5～0.7	10	N84° W	須恵器杯(3・4)・碗(5)	古墳時代
SD7	32.5以上	1.3～2.5	30～60	N 2° W	土師器碗(6)・甕(7～9)、須恵器杯蓋(10)・鉢(11)等	古墳～飛鳥
SD8	16.2	0.9～2.1	10	N11° W	土師器甕(12)	
SD9	13.6以上	0.5～1.0	10	N 2° W	なし	
SD10	20.0以上	1.2～2.0	30～40	N41° E	土師器・須恵器・製塩土器片	平安時代
SD11	19.3以上	0.6～1.3	10～20	N48° E	土師器碗(13)・杯(14)、平瓦(15)、須恵器杯・蓋、灰釉陶器壺等	平安時代
SK12	2.0	1.0	30	N99° W	土師器片、須恵器杯・蓋	奈良時代

第7表 遺構一覧表

(41)は「N」字状の記号と思われる。外面はいずれも未調整である。

・土師器鈔付き円筒状土器 (49) 鈔部付近の1/4程の破片である。鈔部は、胴部をハケメ調整した後、貼りつけている。同器種がA地区からも1点出土している。

・須恵器杯 (58) 試掘調査時に旧耕作土から出土した遺物であるが、外面底部に「馬」の墨書がみられる。

・緑釉陶器小椀 (76) 胎土は硬質で、内外面とも全面に濃緑色の釉を施しており、外面底部には「N」字状のヘラ記号がみられる。

・緑釉陶器皿 (77) 旧耕作土出土であるが、A地区遺物包含層出土の破片と接合している。胎土は硬質で、内外面とも淡緑色の施釉がみられる。

・甕 (95) 須恵質の円面甕であるが、小片であるため、径および透かしの数は推定である。

4. 小 結

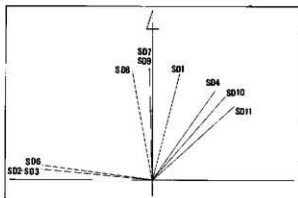
B地区では、A地区あるいはC地区にみられるような住居跡は検出されず、溝が1条と土坑が1基検出されただけであった。B地区は、A地区とC地区に挟まれた非居住区域であり、それはB地区中央部の低地という地形的な制約によるものと考えられる。

検出された溝はその方向により、2つのグループに人別できる。SD1・7～9 (N11° W～N14° E) およびそれにおおむね直交するSD2・3・6 (N84～85° W) のAグループと、SD4・5・10・11 (N35～48° E) のBグループである。

Aグループの溝のなかでは、ほぼ南北に走るSD7は幅1.3～2.5m、深さ30～60cmと他の溝に比べて大型である。SD1からは須恵器平瓶(1)が、SD3からは須恵器杯、SD6からは須恵器杯(3・4)・椀(5)などが出土しており、これらは古墳時代後期の遺物である。またSD7からは土師器椀(6)・甕(7～9)、須恵器杯蓋(10)・鉢(11)など古墳時代後期から飛鳥時代の遺物が出土している。したがって、Aグループは古墳時代後期から飛鳥時代の遺構と思われる。

Bグループの溝では、SD10からは製塩土器などが、SD11からは土師器杯(14)や灰釉陶器甕などが出土しており、これらの遺物からBグループの溝は平安時代前半の遺構と思われる。

(河北秀実)



第22図 検出された溝の方位

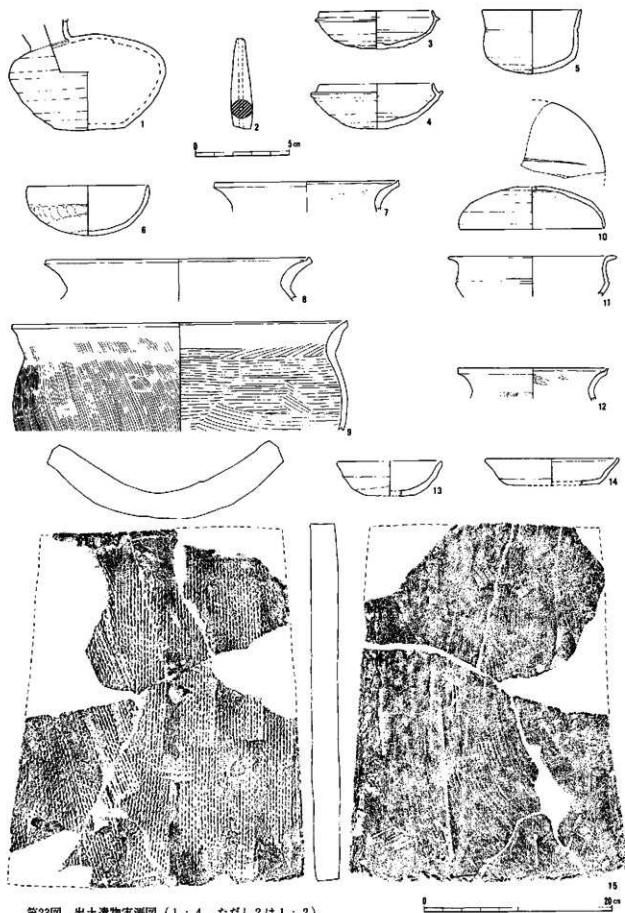
(註)

① 後藤建一ほか「西笠子第64号空路発掘調査報告書」河津市教育委員会 1987

② 平成2年度 三重県埋蔵文化財センターによって発掘調査が行われた。

遺物番号	発掘番号	出土遺物位置	器 形	口 径	口 縁	高 さ	底 径	底 面	形状の特徴	装 飾 の 特 徴	土 質	産 地	色 調	備 考
1	11-2060	D81 S D 1	須置器 平底	不明	不明	7.4	口縁 欠損	口縁 欠損		ロコナダ、裏面下部の ロコナダ ロコナダ同様に作り	砂粒含	良、 良、 良	灰白NR/	
2	11-2069	D85 S D 5	土師器 土器	全長 4.7	径 1.1	任 1.1	孔深 0.2	底形	細長い		良	良	浅黄7.1YR8/4	重量4.4g
3	11-2062	C86 S D 6	須置器 平底	12.0	4.0	-	-	口縁 欠損	たまたがが口縁 の内縁、突部11 センチ程度	ロコナダ、裏面へタカリ 常調製、ロコナダ同様に作り	良	良	灰白2.5Y6/1	
4	11-2061	C86 S D 6	須置器 平底	12.2	4.0	-	-	口縁 欠損	たまたがが口縁 の内縁	ロコナダ、背面下部の ロコナダ、同様に作り	良	良	黄灰5Y6/1	
5	11-2063	C86 S D 6	須置器 平底	10.4	6.8	-	-	口縁 欠損	背面に穴縁1条 口縁やや厚く	ロコナダ、裏面のロコナ ダ、ロコナダ同様に作り	細砂含	良、 良、 良	灰白10Y8/1	
6	11-2062	C86 S D 7	土師器 平底	12.8	5.3	-	-	口縁 欠損	裏面つなぎ溝、口縁部 コナダ、ユビオヤス、底面 光潤		良	良	褐色7.5Y7/6	
7	11-2063	C86 S D 7	土師器 平底	(20)	不明	-	-	口縁 欠損	口縁部コナダ、内面にハ メクが現る		砂粒含	良	浅黄2.5Y7/4	
8	11-2054	E86、D87 S D 7	土師器 平底	(28)	不明	-	-	口縁 欠損		口縁部コナダ	砂粒含	良	浅黄5Y6/3	
9	11-2065	D87 S D 7	土師器 平底	(35)	不明	-	-	口縁 欠損	把手付かみ?	口縁部コナダ、裏面に外 周ハメク	良	良	明黄2.5Y7/6	
10	11-2056	D87 S D 7	須置器 平底	(15)	4.5	-	-	口縁 欠損		ロコナダ、裏面下部の コナダ、ロコナダ同様に作り	砂粒含	良	青灰5D6/1	外底天井部ニ へり割付「一」
11	11-2057	E86 S D 7	須置器 平底	(18)	不明	-	-	口縁 欠損	穴縁1条	ロコナダ	良	良	灰白10Y7/1	
12	11-2058	F88 S D 8	土師器 平底	(16)	不明	-	-	口縁 欠損		口縁部コナダ、裏面に外 周ハメク、胎土つなぎ 溝	黄灰含 砂粒含	良	浅黄2.5Y8/4	
13	11-2065	K94 S D 11	土師器 平底	(11)	3.6	-	-	口縁 欠損	裏面平直	胎土つなぎ溝、口縁部 コナダ、外周ハメク、 底面光潤	良	良	浅黄2.5Y8/4	
14	11-2064	D94 S D 11	土師器 平底	(14)	2.8	-	-	口縁 欠損	口縁やや外反	口縁部コナダ、底面光潤	良	良	黄2.5Y8/4	
15	11-2116	C94 S D 11	瓦 平瓦	全長 39.0	底幅 28.2	厚 2.7	1.9	口縁 欠損		一枚通り、内底幅巾が、右・砂 粒・減面ケズ、面取	瓦 砂粒含	良	青灰5D6/1	
16	11-2113	C104 包合層	石製 石鏡	全長 不明	径 2.2	厚 0.4	欠損	口縁 欠損	凹面無基台縁				(右群) ツメコ ノミ	重量2.2g
17	11-2096	D105 包合層	縄文土器	不明	不明	不明	不明	口縁 欠損	突部	コナダ	砂粒含	良	灰黄2.5Y7/2	
18	11-2077	C81 包合層	土師器 平底	(15)	3.4	-	-	口縁 欠損	底面平直	口縁部コナダ、底面光潤	砂粒含	良	浅黄10YR8/3	
19	11-2078	C81 包合層	土師器 平底	(15)	3.5	-	-	口縁 欠損	底面平直	胎土つなぎ溝、口縁部 コナダ、ユビオヤス、底面 光潤	砂粒含	良	灰白黄2.5Y7/2	
20	11-2080	C81 包合層	土師器 平底	(13)	2.8	-	-	口縁 欠損		口縁部コナダ、底面光潤	良	良	黄2.5YR8/5	
21	11-2079	C81 包合層	土師器 平底	(13)	3.0	-	-	口縁 欠損		口縁部コナダ、底面光潤	良	良	灰白黄2.5Y7/2	
22	11-2069	C81 包合層	土師器 平底	(12)	不明	-	-	口縁 欠損	口縁やや外反	口縁部コナダ、底面光潤	良	良	黄5YR/8	
23	11-2071	C81 包合層	土師器 平底	(14)	3.1	-	-	口縁 欠損	口縁やや外反	口縁部コナダ、底面光潤	良	良	黄5YR/8	
24	11-2067	C94 包合層	土師器 平底	14.2	3.0	-	-	口縁 欠損	口縁やや外反	口縁部コナダ、ユビオヤ ス、底面光潤	良	良	黄5YR/8	
25	11-2070	C81 包合層	土師器 平底	(12)	2.9	-	-	口縁 欠損	口縁やや外反	口縁部コナダ、底面光潤	良	良	黄5YR/8	
26	11-2072	C81 包合層	土師器 平底	(12)	2.2	-	-	口縁 欠損	口縁やや外反	口縁部コナダ、ユビオヤ ス、底面光潤	唯	良	黄7.5YR/6	
27	11-2068	B81 包合層	土師器 平底	12.6	2.8	-	-	口縁 欠損	口縁やや外反	口縁部コナダ、ユビオヤ ス、底面光潤	良	良	浅黄2.5Y8/4	
28	11-2066	F94 包合層	土師器 平底	13.8	3.1	-	-	口縁 欠損	口縁やや外反	口縁部コナダ、底面光潤	良	良	黄5YR/8	
29	11-2061	B81 包合層	土師器 小皿	10.2	1.9	-	-	口縁 欠損	「て」の字状口縁	口縁部コナダ、底面光潤	粗	良	浅黄7.5YR8/4	
30	11-2062	B81 包合層	土師器 小皿	(11)	1.9	-	-	口縁 欠損	「て」の字状口縁	口縁部コナダ、底面光潤	粗	良	黄2.5YR8/5	
31	11-2045	C81 包合層	土師器 平底	(20)	2.7	-	-	口縁 欠損		口縁部コナダ、裏面へタ カリ	砂粒含	良	黄5YR8/8	
32	11-2045	F86 包合層	土師器 平底	(20)	1.8	-	-	口縁 欠損		口縁部コナダ、裏面へタ カリ	良	良	黄2.5YR7/8	
33	11-2044	C81 包合層	土師器 平底	(20)	2.0	-	-	口縁 欠損		口縁部コナダ、底面光潤 ?	良	良	黄5YR/8	

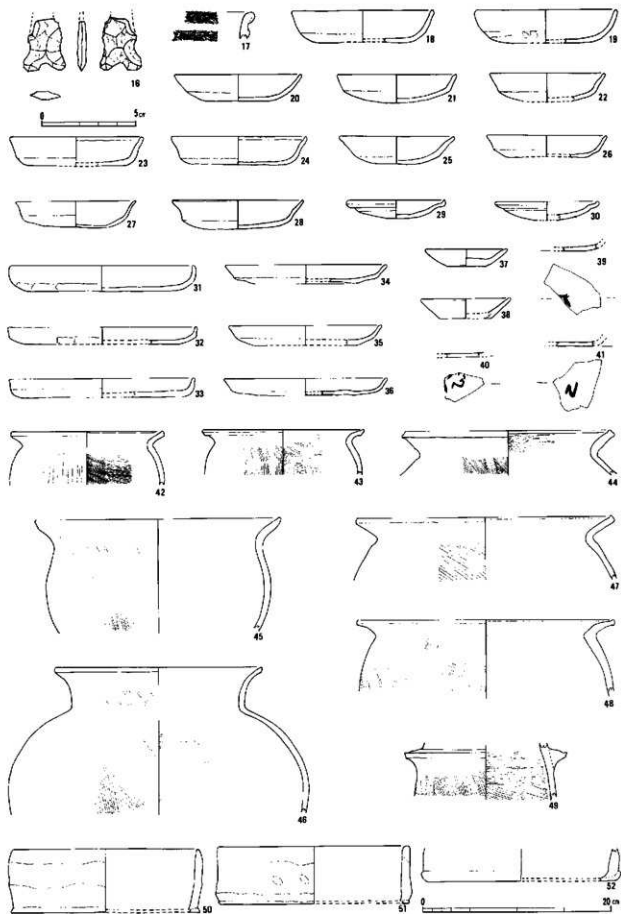
第8-1表 出土遺物観察表



第23図 出土遺物実測図(1:4, ただし2は1:2)

遺物番号	発掘番号	出土遺物位置	種類	形状	口径 mm	高さ mm	底径 mm	遺存状況	形跡の特徴	出土の特徴	粘土	焼成	色調	備考
34	11-2073	C81 惣合葬	土器器 底	土器器 底	(17)	2.6	-	片		口縁部コシナダ、底部未調査	真	真	黄SYR7/8	
35	11-2074	C81 惣合葬	土器器 底	土器器 底	(16)	2.1	-	片		口縁部コシナダ、底部未調査	真	真	黄SYR7/8	
36	11-2046	B81 惣合葬	土器器 底	土器器 底	(17)	1.8	-	片		口縁部コシナダ、底部未調査	真	真	土黄・赤褐SYK5/6	
37	11-2075	C81 回葬作土	土器器 小皿	土器器 小皿	(9)	1.8	4.2	片		口縁部コシナダ、底部未調査、口縁部有傷	砂粒含	真	黄SYR10YR/4	口縁部有傷
38	11-2076	B81 回葬作土	土器器 小皿	土器器 小皿	(9)	2.1	(5.4)	片		口縁部コシナダ、底部未調査、口縁部有傷	砂粒含	真	黄SYR7/6	口縁部有傷
39	11-2085	C81 惣合葬	土器器 底・底?	不明	不明	-	-	小片		高塚未調査	真	真	黄SYR7/8	底部外面に黒層
40	11-2083	C81 惣合葬	土器器 底・底?	不明	不明	-	-	小片		高塚未調査	真	真	黄SYR7/6	底部外面に黒層
41	11-2084	C81 惣合葬	土器器 底・底?	不明	不明	-	-	小片		高塚未調査	真	真	黄SYR7/8	底部外面に黒層「N」字状
42	11-2049	B81 惣合葬	土器器 底	土器器 底	(16)	不明	-	口縁部		口縁部コシナダ、底部内外面ともハケメ	真	真	土黄・黄SYR7/3	
43	11-2048	B101 回葬作土	土器器 底	土器器 底	(17)	不明	-	口縁部		口縁部コシナダ、底部内外面ともハケメ	砂粒含	真	黄SYR6/2	
44	11-2050	C80 惣合葬	土器器 底	土器器 底	(22)	不明	-	口縁部		口縁部コシナダ、底部外面ハケメ、内面ナダ、口縁部内面ハケメのり跡	砂粒含	真	黄2.5YR/3	
45	11-2088	C81 惣合葬	土器器 底	土器器 底	(26)	不明	-	上半部		口縁部コシナダ、底部外面ハケメ、内面ナダ	砂粒含	真	黄2.5YR/4	
46	11-2086	D、E105、E106 惣合葬	土器器 底	土器器 底	(22)	不明	-	上半部		口縁部コシナダ、底部内外面ともハケメ	砂粒含	真	黄7.5YR/8	
47	11-2081	C81 惣合葬	土器器 底	土器器 底	(27)	不明	-	口縁部		口縁部コシナダ、底部外面ハケメ、内面ナダ	砂粒含	真	土黄・黄SYR6/4	
48	11-2087	C81 惣合葬	土器器 底	土器器 底	(27)	不明	-	口縁部		口縁部コシナダ、底部外面ハケメ、内面ナダ	砂粒含	真	黄SYR7/6	
49	11-2080	C81 惣合葬	銅片・骨片 七輪	不明	不明	17mm		片		底部内外面ハケメ、ハケメ跡は縦向きに付く	真	真	黄SYR7/6	
50	11-2055	B、C81 惣合葬	製土器 底	不明	6.7	不明	-	小片	志摩式	内面ナダ、外面押きこみによる凸あり	砂粒・小石含	真	黄SYR8/4	
51	11-2052	B81 惣合葬	製土器 底	不明	6.0	不明	-	小片	志摩式	内面ナダ、外面押きこみによる凸あり、粘土つきな裏、底面凹	砂粒・小石含	真	黄SYR6/6	
52	11-2051	B81 惣合葬	製土器 底	不明	不明	不明	-	小片	志摩式	内面ナダ	砂粒・小石含	真	土黄・黄SYR7/4	
53	11-2004	F96 惣合葬	灰土器 底	(10)	不明	-	-	口縁部		口縁部は低く内傾	真	硬	灰N5/	
54	11-2006	F82 惣合葬	灰土器 底	(11)	不明	-	-	口縁部		口縁部は低く内傾	真	軟	灰K10Y7/	
55	11-2003	F86 回葬作土	灰土器 底	(12)	2.2	(7)		片		底部は腹縁的に外傾	砂粒含	真	灰白N7/	
56	11-2008	B81 惣合葬	灰土器 底	(11)	3.2	(7)		片		底部やや内傾気味	砂粒含	硬	灰K8M6/1	
57	11-2001	F96 回葬作土	灰土器 底	(12)	3.7	高さ (9.6)		片		高さ外傾気味、底部は外傾	砂粒含	真	灰白N7/	
58	11-2088	F102 回葬作土	灰土器 底	(12)	3.9	高さ (9.0)		片		高さ外傾気味、底部は腹縁的に外傾	砂粒含	真	黄赤灰SD7/1	底部外面に黒層「馬」
59	11-2055	F82 回葬作土	灰土器 底	(14)	3.4	-		片		口縁部コシナダ、天部表面有傷	真	真	灰白N7/	
60	11-2030	F102 回葬作土	灰土器 底	(11)	3.2	-		片		口縁部コシナダ、天部表面有傷、口縁部コシナダ、口内面凹縁付あり	砂粒含	真	灰白N7/	
61	11-2028	B81 惣合葬	灰土器 底	(10)	不明	-		片		内面にかまより	砂粒含	真	灰白N7/	
62	11-2029	B80 惣合葬	灰土器 底	(10)	不明	-		片		内面にかまより	砂粒含	真	灰白N7/	
63	11-2026	B、C101 回葬作土	灰土器 底	(14)	3.1	-		片		つまみ	砂粒含	真	灰白N7/	
64	11-2031	B、C81 惣合葬	灰土器 底	(14)	不明	-		片		つまみ(細)	砂粒含	真	灰白N7/	
65	11-2033	D95 惣合葬	灰土器 底	不明	不明	円孔 1.6		片		腹縁上部に各々凹縁一本	砂粒含	硬	黄赤灰3/1	
66	11-2049	E106 惣合葬	灰土器 底	(14)	不明	-		口縁部		口縁部ナダ、側面凹	砂粒含	硬	黄K6/10Y7/1	

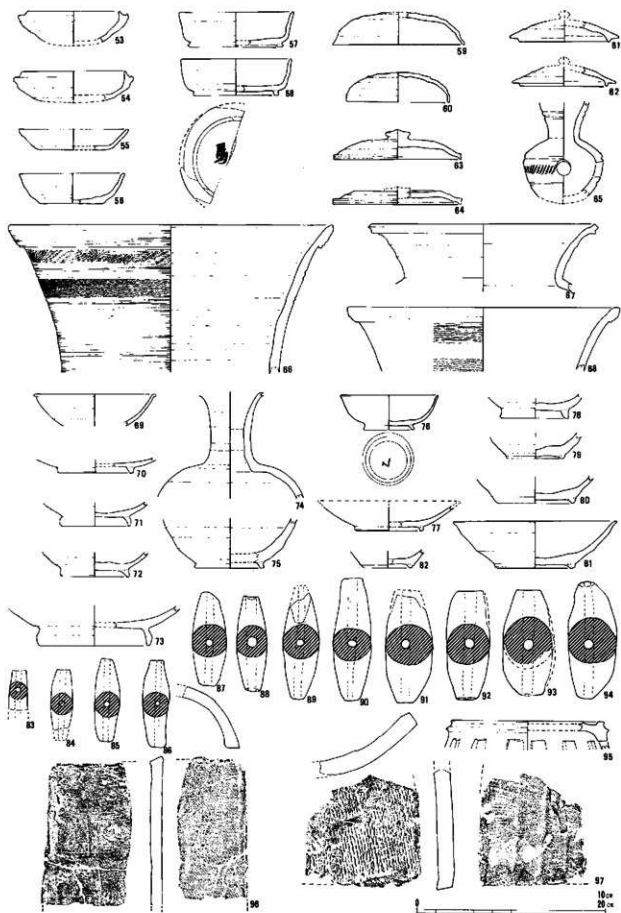
第8-2表 出土遺物観察表



第24図 出土遺物実測図 (1 : 4, ただし16は1 : 2)

発掘 番号	発掘番号	出土遺物位置	器 形	口 径 cm	底 径 cm	底 高 cm	底 面 積	形状の特徴	技法の特徴	出土 状況	色 調	備 考
67	11-2041	B81 包含層	須恵器 甕	(26)	不明	—	口縁 3/5		ロクロナガ	良	良	青灰108G/1
68	11-2040	C90 包含層	須恵器 甕	不明	不明	—	口縁 小		ロクロナガ、横状文	砂粒含	良	青灰506G/1
69	11-2026	D96 田耕作土 B94、C100、 B120 田耕作土	陶器 瓦筒筒	(12)	不明	不明	口縁 3/4	口縁部削面	ロクロナガ、内面と外面口 縁にハケによる塗料	良	硬	灰白577/2
70	11-2021	B120 田耕作土	陶器 瓦筒筒	不明	不明	高台 7.2	底径 3/4		外周ロクロナガ、口縁 部縦線付あり	良	良	灰白2.5Y7/1
71	11-2018	G84 田耕作土	陶器 瓦筒筒	不明	不明	高台 7.2	底径 3/4	底面内径広さ3 cmの窪、三日 月高台	條縞のロクロナガ、底面ナガ	砂粒含	良	ヒレノ青灰109YR7/2 高台のみ灰白G/
72	11-2019	F92 田耕作土	陶器 瓦筒筒	不明	不明	高台 7.0	底径の み	高台外周キ	ロクロナガ、底面赤切り後 ナガ面し	陶質	良	灰白5N/6
73	11-2023	H10 包含層	陶器 瓦筒筒	不明	不明	高台 (12)	底径 3/4	三日月高台	外周ロクロナガ、口縁 部縦線付あり	陶質	良	灰白2.5Y8/1
74	11-2042a	B81 包含層	陶器 瓦筒筒	不明	不明	不明	不明	不明	ロクロナガ	良	硬、自 然熟	灰白10Y7/1
75	11-2042b	B81 包含層	陶器 瓦筒筒	不明	不明	高台 (7)	底径 3/4		内周ロクロナガ、外周ロク ロナガ	良	硬、自 然熟	灰白10Y7/1
76	11-2024	C81 包含層	陶器 越前小輪	10.3	3.7	4.8	径目完 形	高台外周 口縁や中環	二式小輪、内外面とも全 面に漆塗色の施物	硬質 陶質	硬	灰白2N/6
77	11-2025	F92、C90、田耕作 土、八咫宮34区	陶器 越前小輪	不明	不明	高台 (7)	底径3/4	内高台	二式小輪、内外面とも全 面に漆塗色の施物	硬質 陶質	良	灰白2N/6
78	11-2012	B98 田耕作土	陶器 山形筒	不明	不明	高台 (7)	底径 3/4	高台外周	ロクロナガ、底面赤切り後 ナガ	良	良	灰白5N/6
79	11-2014	B92 包含層	陶器 山形筒	不明	不明	高台 (6)	底径 3/4	高台逆三角形	ロクロナガ、底面赤切り後 ナガ、ふこみ調整、縦線模	砂粒含	良	灰白5N/7
80	11-2015	B102 包含層	陶器 山形筒	不明	不明	高台 8.0	底径 3/4	高台逆三角形	ロクロナガ、底面赤切り後 ナガ	砂粒含	良	灰白5N/7
81	11-2100	D82 田耕作土	陶器 山形筒	(17)	5.0	高台 7.5	3/4	高台逆三角形	ロクロナガ、底面赤切り後 ナガ、縦線模	砂粒含	良、自 然熟	灰白5N/6
82	11-2011	黄土	陶器 山形筒	不明	不明	高台 (5)	底径3/4	高台逆三角形	ロクロナガ、底面赤切り後 ナガ、縦線模	砂粒含	良	灰白5N/6
83	11-2112	C86 田耕作土	土製品 土罐	全長 2.6	径 1.0	孔深 0.3	3/4	細長い		良	良	淡黄2.5Y7/3
84	11-2111	C82 包含層	土製品 土罐	全長 3.2	径 1.2	孔深 0.3	短筒状	細長い		良	良	淡黄2.5Y8/3
85	11-2110	C80 包含層	土製品 土罐	全長 4.3	径 1.3	孔深 0.3	兜形	細長い		良	良	橙黄7YR/8
86	11-2109	黄土	土製品 土罐	全長 4.5	径 1.2	孔深 0.3	球状兜 形	細長い		良	良	橘黄7.5YR/4
87	11-2108	包含層	土製品 土罐	全長 4.9	径 1.7	孔深 0.4	兜形	細長い		良	良	黄黄7.5YR/8
88	11-2107	D102 田耕作土	土製品 土罐	全長 5.1	径 1.7	孔深 0.6	球状兜 形	細長い		良	差	灰白色2.5Y8/2
89	11-2106	E100 田耕作土	土製品 土罐	全長 6.6	径 2.0	孔深 0.4	筒筒状	細長い		良	良	橙色7.5YR/6/8
90	11-2105	B82 包含層	土製品 土罐	全長 6.5	径 2.0	孔深 0.5	兜形	細長い		良	良	淡黄色2.5Y8/3
91	11-2104	B82 包含層	土製品 土罐	全長 6.6	径 2.0	孔深 0.4	筒筒状	細長い		良	差	淡黄黄10YR8/4
92	11-2103	D100 田耕作土	土製品 土罐	全長 5.7	径 2.3	孔深 0.6	球状兜 形	細長い		良	差	橘黄5YR/1
93	11-2102	D108 田耕作土	土製品 土罐	全長 5.5	径 2.7	孔深 0.5	3/4	細長い		良	良	黄黄7.5YR/8
94	11-2101	F99 田耕作土	土製品 土罐	全長 6.2	径 2.5	孔深 0.5	兜形	細長い		良	差	暗黄7.5YR7/2
95	11-2097	C83 田耕作土	須恵器 筒	不明	不明	不明	小片			須恵器 良	差	黄黄淡5D67/1
96	11-2115	D81 包含層	瓦 瓦足	全長 不明	幅 不明	厚さ 1.2	小片		白磁焼付後ナガ、側面ケ ズリ、表面塗末調整	砂粒含	差	灰白2.5Y7/1
97	11-2114	包含層	瓦 瓦足	全長 不明	幅 不明	厚さ 1.7	小片		白磁焼付後、側面ケズリ、表面 塗末調整	砂粒含	良	灰白5N/7

第8-3表 出土遺物観察表



第25図 出土遺物実測図 (1 : 4, ただし83~94は1 : 2)

P L I



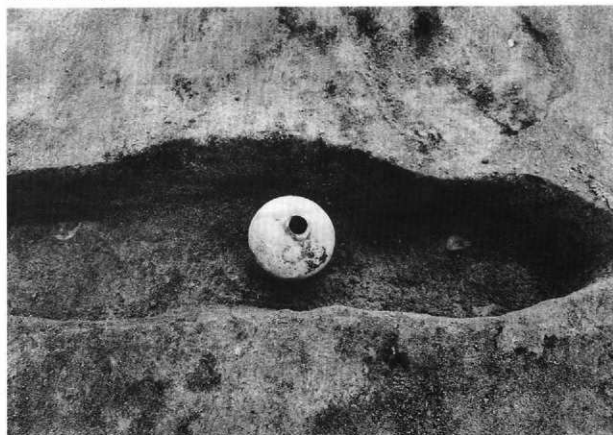
調査前風景（南から）



発掘区全景（北から）



発掘区北半部（南から）

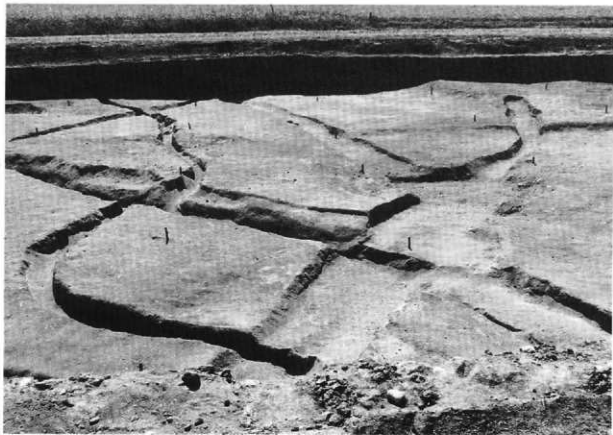


SD1遺物出土状況（西から）

PL3



SD4・3・2 (東から)



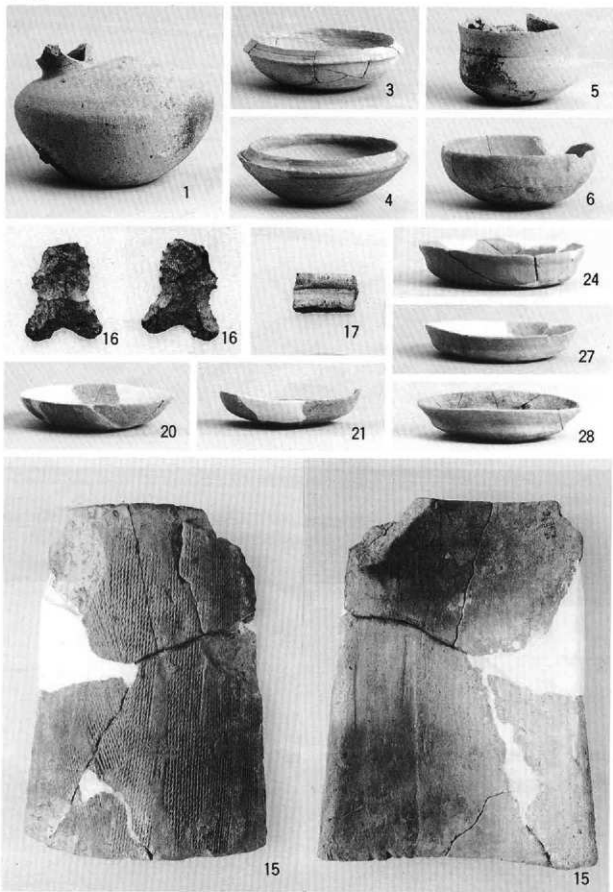
SD5・7・4・3 (東から)



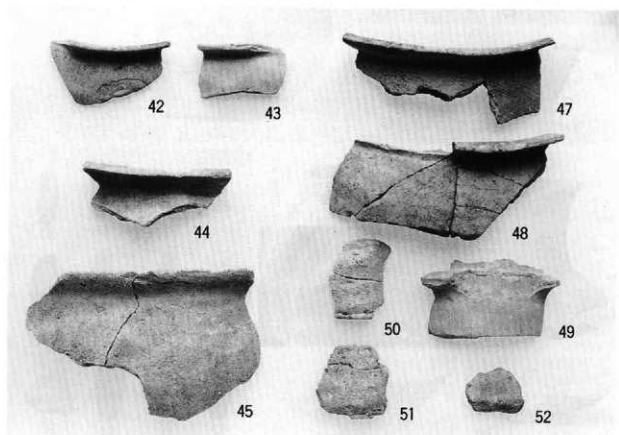
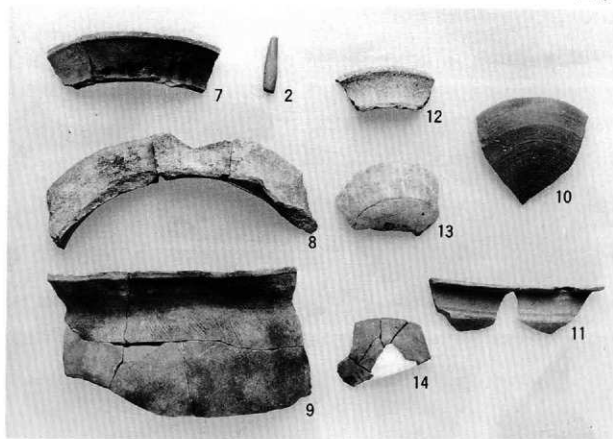
SD8-5-7-3 (北から)



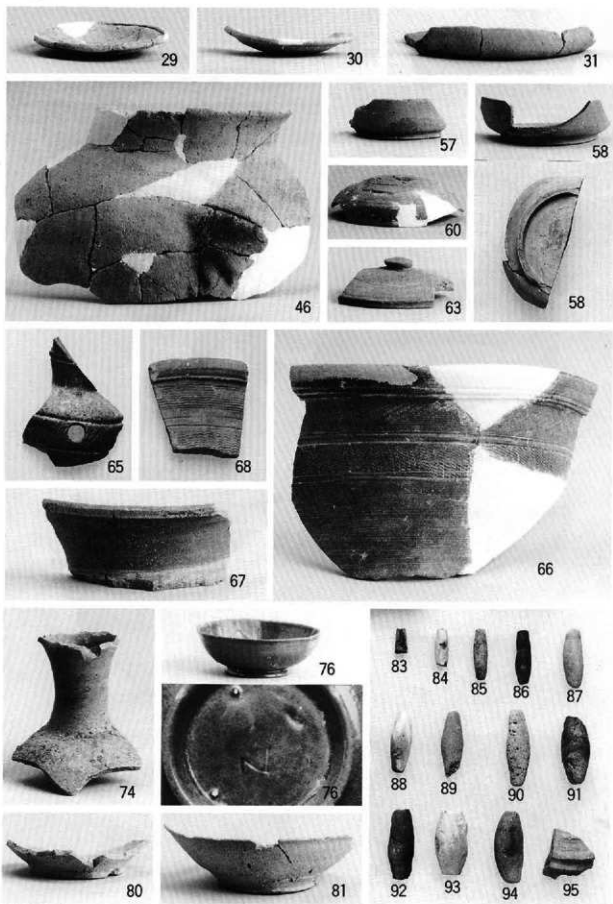
SD11-10 (東から)



出土遺物 (1 : 3, 16は1 : 1, 15は1 : 4)



出土遺物 (1:3)



出土遺物 (1: 3, 76の下は1: 1)

平成3(1991)年に刊行されたものをもとに
平成18(2006)年にデジタル化しました。

三重県埋蔵文化財調査報告87-8

近畿自動車道(久居～勢和)

埋蔵文化財発掘調査報告

— 第3分冊2 —

1991(平成3)年3月

編集 三重県教育委員会
発行 三重県埋蔵文化財センター
印刷 光出版印刷株式会社
